

ある近衛兵の軍隊手帳

— 皇居衛兵、東京～北九州小倉出張、房総半島で迎えた敗戦の軍事記録 —

山崎 勇 治

(国際教育交流センター)

キーワード

軍隊手帳、日中戦争、太平洋戦争、近衛兵、皇居、警戒警報、
東海道線、焼け野が原、房総半島、玉音放送

要 旨

戦後70年を迎えた今日、日中戦争と太平洋戦争および本土空襲の歴史を学ぶことはとても重要なことである。とくに日中戦争で4年間も敵弾の下をくぐり、アメリカの空爆によって沖縄から全土にわたって焼土と化した日本で近衛兵として戦った兵士の軍隊日記は貴重な史料である。父親が残した軍隊手帳を通じてこれら史実を紹介する。



近衛兵



軍隊手帳

はじめに

私は、2年前の2014年に「父親の日中戦争軍隊手帳 一上海から漢口を目指しての行軍記録(1938年)一」(北九州市立大学国際論叢)、第12巻、を公表した。

この論文の内容は、以下の通りである。

10年前に父親は満89歳で他界した。死の直前に、父親は彼が大切にしていた軍隊日記を私たち兄弟に手渡した。何らかの公表を望んでいたかもしれない、と兄弟で話し合った。

そこで第1に素朴な農村の一青年、山崎重一郎の17歳の日記を紹介し、数年後には立派な軍人となっていく過程をみた。

次に昭和13年1月の赤紙召集命令から軍事訓練を経て、宇品港から出奔するまで。

第3に、いたるところに、兵士と軍馬の死体が転がっている上海に上陸し、敵兵に囲まれて戦闘の日々まで。

第4に、上海、南京と支那大陸を支配して漢口攻防の天王山たる羅盤山にたどり着くまで。

第5に、明日の戦いで死ぬと覚悟を決め、最後の晩餐で、路上の赤犬の肉を喰って野戦病院に送り返されるまで。

第6に、1か月余りの闘病生活で奇跡的に回復し、原隊に昭和14年の正月を迎えるまで。

軍隊手帳発表後、様々な方からご意見と感想を寄せていただいた。公表に踏み入って良かったと胸をなでおろしていた。

ところが、父親の軍隊手帳はこれですべてだとばかり思っていたところ、彼の軍隊手帳の束の中にもう1冊の軍隊手帳が残存していたことが分かった。父親が天皇をお守りする「近衛兵」手帳である。皇居のお守りに従事した昭和19年から玉音放送を聞いてうなだれた昭和20年(1945年)9月までが赤裸々に書かれているのではないか。

「父親の日中戦争軍隊手帳」の完結編としてこの軍隊手帳を公表することにした。1938年から1945年まで青春時代を戦争に捧げた彼が大東亜戦争終結をどのようにみていたのを知ることは大切であると思うからである。

農民運動の指導者の息子が、一兵卒として中国大陸で4年間を過ごし、満期を迎え、1941年に無事帰国した。その後、彼は結婚をして一児を授かり平和な生活をしていた。それが日中戦争から大東亜戦争へと突入していく過程で、1944年に突如として近衛兵として再召集されることになった。多くの兵士が大陸の任務を終えると南方戦場送りとなるときに、彼は例外的に近衛兵に抜擢されたことは幸運なことであった。

近衛兵とはどんな兵士なのか。生まれて初めて大東京に身を置き、身体を張って全力で皇居を守る近衛兵としてどのような日々を過ごしたのであろうか。

アメリカ爆撃機 B29 機が東京上空に現れて、空襲に遭遇するが、その際に皇居は攻撃の対象となったのか。

緊迫しつつも敵は空からの爆撃機である。中国大陸では 500 メートル先の敵軍と対峙して激しい銃の打ち合い、殺し合いを 4 年間も行ったいわゆる戦場における軍隊と、空からの攻撃だけを受ける、いわば間接的な敵と対峙する近衛兵との違いがあったのか。

父親が突然に人事異動で天皇家の避暑地で戦時下においては、疎開の御殿となった那須塩原御用邸を護衛すべく宇都宮に皇居から転属となった。宇都宮にいて間もなく、九州の小倉部隊に 40 日間の出張命令が下った。彼は北九州の小倉部隊でいったい何を学んだのか。

40 日間の九州での研修を終えて、6 月 18 日に宇都宮部隊に帰還する。その際に、B29 機による空爆を受け、破壊された下関、広島、神戸、大阪、名古屋、静岡を、横浜を列車で通過するわけであるが、彼は車窓から国土を眺め、何を感じたのであろうか。

見渡す限り焼け野が原となった上野駅に立ってその光景をどのような思いで見たのだろうか。

その後、彼は、アメリカの本土上陸作戦を想定して宇都宮から房総半島に移動が命じられる。アメリカ空軍の空爆に曝された房総半島での軍隊生活はいかなる任務についてのか。食料の現地調達をする上で、特に地元の若き男性が召集で居なくなった後、半農、半漁の地域住民とどのような共同生活をしたのか。

敗戦を迎える 8 月 14 日と 15 日、玉音放送をどのような気持ちで聴いたのであろうか。

部隊解除となり、150 名ばかりの部下を、大混乱の東京まで引率する役割を担わされた山崎兵長は、混乱のさなか、房総半島から東京駅まで、どのように部下を引率し、東京駅まで辿りついたのか。敗戦の将はいかなる思いで故郷にたどり着いたのか。このような点に着目して看破していただければ幸甚である。

第 1 章 大東亜戦争の背景

第 1 節 昭和恐慌と世界恐慌が引き起こした農業恐慌

ニューヨークのウォール街の株の暴落によるアメリカの金融恐慌は世界恐慌を惹き起こした。それが引き金になって、日本の重要輸出商品である生糸の対米輸出が激減した。このことによる生糸価格の暴落を導火線とし他の農産物も次々と価格が崩落。いわゆる農業恐慌が本格化した。それと前後する昭和恐慌で、とりわけ大きな打撃を受けたのは農村であった。

第 2 節 日中戦争（支那事変）の展開過程

世界恐慌後、移民先をアメリカから断れると、日本は満州に目を向けざるを得なかった。そ

ここで、1931年、柳条湖事件に端を発した満州事変が勃発。関東軍（大日本帝国陸軍）により満洲全土が占領された。

関東軍の主導のもと同地域は中華民国からの独立を宣言し、1932年3月、満洲国の建国に至った。満洲国皇帝には清朝最後の皇帝・愛新覺羅溥儀がついた。

- (1) その後、日本政府は現在の北京郊外で起きた盧溝橋(ろこうきょう)事件
- (2) 上海事変
- (3) 和平交渉・南京戦
- (4) 徐州攻略
- (5) 漢口・広東攻略
- (6) 蒋介石軍、重慶へ退去⇒戦場拡大→日本軍、点のみ確保

と日中戦争が拡大していった。

父親は、(5)の漢口攻略作戦に参加したことはすでに述べたとおりである。

第3節 真珠湾攻撃とアメリカの戦争決意

なぜ、父親は1944年から本土防衛のために近衛兵となったのであろうか。その歴史的背景をのべたい。

- (1) 日本軍は長期化した日中戦争を有利に終結させる方策を探したが、和平交渉はいずれも失敗し、重慶の国民政府に対する英米の援蒋ルートを通じての支援がますます強まっていたことに焦りを感じていた。
- (2) 1940年7月に成立した第2次近衛内閣は、ドイツ・イタリアの「ヨーロッパ新秩序」に呼応する「大東亜新秩序」の建設と「新体制」と言われる戦時体制の整備が為されるとともに、大本営は「武力南進」の方針を固めた。1940年9月フランス領インドシナ北部に進駐を強行、ほぼ同時に政府は日独伊三国同盟を締結して、アメリカを仮想敵国とする姿勢を明確にした。
- (3) これに反発したアメリカが日本に対する経済制裁を強化すると、関係打開のため1941年4月から日米交渉が開始された。
- (4) 一方ではソ連との衝突を介意するため、同年4月に日ソ中立条約を締結した。
- (5) しかし、日米交渉は難航、6月に独ソ戦が始まると、軍部は行動を急ぎ7月に南部仏印進駐を強行した。
- (6) 日米交渉中の軍事行動に反発したアメリカは8月に日本に対する石油輸出をストップを決定、日本は追い込まれる形となった。
- (7) 国内にはアメリカ・イギリス・中国・オランダによる日本包囲網を ABCD ラインと称し、

その打破を叫ぶ声が強くなった。

- (8) 近衛首相は日米交渉に開戦回避の可能性を探ろうとしたが、41年9月6日の御前会議で陸軍大臣東条英機が強硬に日米開戦を主張、「帝国国策遂行要領」を決定、日米交渉が10月上旬までに打開されない場合は、開戦を決意するとされた。なお日米交渉を継続しようとする近衛首相は辞任。
- (9) 10月に東条英機内閣が成立した。東条内閣は11月5日に御前会議を招集、11月末までに日米交渉がまとまらなかったら、アメリカとの戦争に踏み切ることを決定、
- (10) 11月26日にアメリカの最終案としてハル＝ノートが提示されたが、それは中国、北部仏印からの撤廃に加えて満州国の放棄を求めるなどの内容であった。
- (11) 東条首相はこれ以上交渉の余地なしとして開戦を決意し、12月1日の御前会議で天皇の裁可を得、12月8日ハワイのアメリカ軍基地真珠湾を奇襲攻撃、これによって大東亜戦争が開始された。〔世界史の窓〕<http://www.y-history.net/appendix/>

第4節 アメリカの参戦と日本全土攻撃

- (1) 真珠湾を爆撃開戦後、まもなくは日本海軍は怒涛の勢いで太平洋上の島々を占拠した。1942年1月、マニラ占領。1942年2月、シンガポール占領。1942年3月、ジャワ島占領。
- (2) しかし、その勢いもそこまでであった。1942年6月のミッドウェー海戦では空母4隻、航空機300機を失い、また多数の熟練兵も失い惨敗してしまった。このミッドウェー海戦を機に戦局は一変。日本はアメリカの猛反撃に遭遇するのである。20万人の犠牲者を出した沖繩戦。勢いに乗じたアメリカは本土攻撃へと展開した。
- (3) アメリカの帝都、東京攻撃に備えて、留守近衛師団を基幹として近衛第1師団(1GD)が、更に1944年(昭和19年)7月18日には留守近衛第2師団を基幹として、近衛第3師団(3GD)が編成された。第二次世界大戦終戦時の近衛第3師団は千葉県成東にあって連合軍の関東上陸作戦(本土決戦・決号作戦)に備えていた。

ウイキペディア(近衛兵)(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BF%91%E8%A1%9B%E5%B8%AB%E5%9B%A3>)

第5節 近衛兵になった山崎重一郎

近衛兵とはなにか。それは皇居の防衛を行うという任務を与えられていた。つまり「天皇の親衛隊」という性格も合わせ持つ部隊」であった。

「近衛師団」というのは、旧陸軍の中の部隊の1つであった。(師団というのは1-2万人くらいが集まってできる部隊)。普通の師団は単に「第一師団」「第二師団」というように番号が

ある近衛兵の軍隊手帳

付いているだけだが、近衛師団はそれだけで1つの部隊を指す固有名詞であった。

この師団は一般の部隊という性格の他に、皇居の防衛を行うという任務を与えられていた。つまり「天皇の親衛隊」という性格も合わせ持つ、いわば「エリート部隊」である。

帽子の徽章のデザインが一般と異なっていた。また、装備品などは優先的にいいものが割りあてられていたようだ。

なぜ彼は誉れ高い近衛兵に任命されたのか。兵卒ならば、徴兵検査で特に優秀な者が数名選抜されて入隊したようだ。「心許確実、品行方正にして資産中流以上。学力は高等小学校卒業以上で、青年学校本科または研究科に4年以上在学し、その課程において修身公民百時間、職業課程を含め二百五十時間、軍事教練課程三百五十時間以上を修得した者、または修得見込みの者で、家族を考慮する必要なく、かつ甲種に合格する見込みの者」が、各市町村兵事課での近衛兵資格要員選定基準であった。さらに、彼は支那大陸で4年間の兵役中、漢口攻略等優秀な成績を残していることから、これらを勘案して近衛兵に選ばれたのであろう。

第2章 近衛兵軍隊手帳紹介

昭和19年

7月15日

浜田市西部第三部隊應召。

第八中隊（小笠原隊）編入。

7月23日より8月12日まで補充兵。

8月1日

入退員の教育をする。

被服係を命ぜられる。

風紀衛兵衛舎係 2回

週番2週間勤務する。

8月下旬より中隊の空閑地利用農園係として勤務。隊長より褒められ、賞を受けり。

9月24日

(外泊の許可)

正午より転属のため2泊3日の外出を許される。26日24時まで。

9月25日

23時、武道（長男・2歳）の具合悪くなり大さわぎの最中に電報来る。

キュウカ 30 ヒマデエンキス

オガサハラ タイチョウ

武道病気の所だったので皆大喜びする。

すぐ申告の電報せり。

キュウカノケンカンシヤス

30 ヒ帰るヤマサキ

毎日武道と遊ぶ。何とも言えぬ気持ち、感謝感激である。

9月25日

野島幸雄様に召集来る。病気の幸雄様、扁桃腺で寝ている。可愛そうなことである。

9月26日、

弟、松次郎、大阪帝国大学入学のため、10時の自動車にて出発するので、殿川内の祖母、猪小路の母、母上は見送る。

大阪帝国大学工学部電気科。10月1日が入学式だ。

30日 大雨

大雨の中を幸雄（野島）早朝出発だ。餅つき、家内中俺のために出発準備。稲田利市君来てくれ、見送ってもらう。感謝の至りだ。

12時10分、部落の人に見送られて自動車で安来駅下り13時4分発浜田行き、帰隊す。餅をくばり、水筒の酒をのませる。軍隊生活での初めての外泊だ。現役のときは一度も外泊はなしだ。（この休暇間に妻貞子受胎か＝筆者挿入）。

10月1日

転属準備、身体検査、被服などは東部第7部隊へ転属のため軍装検査及び申告

俸給9月分16円78銭

吉原兵長、山下兵長、堀尾上等兵、山崎伸上等兵、金築上等兵等8名。

2日

5時起床。出発、舎前集合、中隊全員の万才で。見送りで本部前集合、第三部隊。

ある近衛兵の軍隊手帳

浜田駅7時30分発車へと。各駅で面会人あり、大騒ぎだ。安来駅で、田淵忠一、奥田等に逢う。
米子駅正午着。

猪小路の父（又市）国民服姿だ。母（ツネ）、貞子、武道、モンペ姿だ。

山中勇中尉、野島熊雄君30分余り面会。家よりにぎり飯、栗タケ、柿。

猪小路の父より5円、焼酎3合。

猪小路の祖母、母より柿、ユデ卵。

家の母（リヨノ）拾円、熊雄様より煙草2ケ。

皆に盛大に見送られて別かれた。

熊雄君は御来屋（みくるや）まで見送ってくれた（鉄道員なので）。

大阪駅9時頃着。1時間ばかり休憩して夜行にて東京へ。神戸、横浜、品川・・・を経て東京駅。電車に乗り換えて。

3日午後4時 明治神宮外苑にて集合。

都中十五中学校に入隊。

雨降り、近衛師団長の巡視あり。

4日

近衛歩兵第六連隊に転属。同日、第八中隊に編入。

6日 編成完結

7日の中隊編成で第八中隊に入る（牧野隊）

大隊長の訓辞、大雨はげし、訓辞も聞こえぬ。

毎日毎日厳格な軍事教育で鍛えられる。初年兵のように。大隊長、河野少佐だ。

18日

大連隊の軍用検査

20日

師団長の軍用検査。賀陽若宮様の臨席もあり。

21 日

兵器検査。

毎朝（早朝）の銃剣術、しかも基本動作だ。

28 日

（近衛兵初出勤）

午後 1 時出発。近衛兵として初めての宮城内の現地教育だ。半蔵門まで電車、青山 3 丁目より半蔵門まで半蔵門より宮城に入った。

神々しさに打たれ感無量だ。

二重橋正門、鉄橋を渡り、恩車寄せ、竹島北門まで。

教育を受け暗くなってより宮城を出発、電車にて帰隊せり。

日本人なら一度は宮城内入りたいものと思う。

毎日毎日の守衛教育学科。銃剣術等。

31 日

10 月分俸給 16 円 78 銭受け取る。

11 月 1 日

（初の敵機来る）

とうとう 11 月だ。故郷では稲刈りだ。麦田のうね水揚げと母をはじめ祖母、大変だと思う。甘藷堀り、柿取り、麦の捲きつけ、5 尺藁布団の中で故郷を想う。夢も見る。

空襲警報発令、敵機来る。

皆それぞれ配備につく。俺は 3 班の舎内監視を命ぜられる。同じく 23 時頃警戒警報発令。

舎内監視の伝令として軍靴捲脚胖にて就寝する。

朝食後、連隊の消防班に編入。

面会所にて待機す。

3 日

（明治神宮参拝）

明治節。5 時起床して中隊全員単独の軍装にて週番士官の引率で明治神宮参拝。各部隊各隊の兵隊サンで一杯だ。帰隊後、銃剣術だ。

8 時 50 分より御真影奉拝式。講堂にて中隊長の精神訓話。

ある近衛兵の軍隊手帳

明治天皇 御聖徳について。

宮城の夜間の現地教育、賢（カシコ）所で。

各歩哨の現地教育。

7時50分、半蔵門より電車にて中隊に帰り、又夕食、腹ペコだ。

6日

（初の警戒警報発令）

警戒警報発令。連隊の消防班へ行く。吉田上等兵、新上等兵森井、西川、浦川上等兵。

7日

（敵 B29、帝都上空に飛来）

午後1時過ぎ警戒、10分後空襲に変える。敵 B29、帝都上空に飛来せり。

直ちに待機。ルーズベルト大統領の選挙の日である。敵 B29、毎日やってくる。

9日

明日の検閲の準備、仕上げで軍装検査。

10日

7時半、軍装を整えて部隊長殿より検閲準備だ。

9時より開始。俺は吹上御所の門の歩哨掛りで検閲を受ける。

10時終わり、講評。ヤヤ良であった。

これで1人前の宮城の守衛が出来る。

銃剣術、朝も昼も夕方も晩もだ。

検閲終わり、いよいよ勤務だ。

休むこともなく対空教育だ。

11日

学課、敵機の識別す。

12日 曇、日曜

朝より寝る。陸軍日曜だ。

12時40分、治療に医務室に行く。

15日

対空射撃訓練。照準につて小形少尉より。

應召以来4か月を終えた。早いものでた。これから先のことを想えばためいきの出る様だ。

然し一線での事を想えば何でもない。頑張らなくては。

戦勝の暁まで頑張らなければならぬ。

16日 雨

寒い雨。軍記教育検閲。

守衛教育検閲、一通りの教育も終わり

これより本格的な勤務につくのだ。

休むひまもなく銃剣術

初年兵の如く鍛えられる。

17日

松次郎より手紙来る。大学生となって初めての便りだ。戦友は銃剣術、俺は一日中防具の面のなおし。休む時もなく。

18日

寒い雨降りだ。東京の雨も寒い。銃剣術の中隊内の試合があり俺も出場する。14組の中で5本勝つ。決勝に出られるところもう一息のため情けないことだった。班対抗し合いで勝つて班長以下班内にて会食。入浴いい風呂であった。

19日

銃剣術神宮外苑12時間あまり、合宿。喰うことの楽しみだ。

20日

4年兵の連隊試合召集兵（俺も）。神宮外苑にて。軍記教育、銃剣術だ。銃剣術の軍隊だ。入浴は物品販売所の入口。

21日

神宮外苑絵画館前にて銃剣術。朝食、昼食を飯盒につめて電車にて東京駅7時50分発列車にて新橋－横浜を経て下車。海岸通りを2キロ行軍、射撃場。

ある近衛兵の軍隊手帳

はじめ風船へ60発、吹流しに2回で20発。射撃の訓練をする。4時平塚駅前。

腹がすいたので民家に入り、甘藷の茹でたのを7個もらい喰う。味は忘れられぬ。東京駅7時15分行軍にて帰隊。煙草、饅頭のうまさ。軍隊ならではの味だ。情けない気もする。又うれしく涙が出る。

23日

除隊式。4年兵の満期及び召集が1年経った者の召集解除。型のごとくの式典。近衛兵なればこそと思う。除隊式、軍旗奉迎、着剣、棒銃、ラッパ、連隊長、連隊長、満期解除者の申告勅諭、勅語の奉納、訓示、軍旗に対して分列行進等。

24日 晴天

大連隊の銃剣術試合、俺は銃術道場で5本勝。短剣術では2本、計7本勝つ。昼食喰うていたら警戒警報を発令。大変だ。飯をかきこみ医務室に行き警備。空襲警報となり敵機来る。上空をB29、7-8機、悠々と飛んでいる。直ちに御所。7時半暗くなって解散帰隊する。会食4年兵の送別会。酒は少ない。杯1杯、ビール3人で1本位だ。

25日

満期者の出発。大隊長、中隊長の訓示。谷口上等兵の荷物を持って営門まで。5百何十人の満期者だ。我々は演習だ。11時半又警戒警報だ。医務室に行くき、待機せり。御所救護班だから昼食を喰って又医務室に。2時半、帰隊。

皆は演習行軍に出発した。

班内整理をせり。久しぶりに入浴。

四年兵が帰ったので淋しいものだ。

26日 晴天 日曜日

班内の整理だ。

酒保に行く。みかん10ヶ、うどん1杯。

青山の青年会館で慰問演芸会あり。部隊全員見物に行く。これより始まる寸前で警戒警報発令。中隊にすぐ帰る。配置にて3時ごろ解除。直ちに会館に行き演芸を見る。

27日

5時起床。中隊長全員演習。代々木の練兵場。第一小隊、第一分隊一番だ。寒い、寒い日だ。

山 崎 勇 治

匍匐訓練だ。昼食。警戒警報。駆け足で帰隊。直ちに空襲警報。ドカン、ドカン、焼夷弾だ。100メートル位の民家が焼ける。俺は、対空攻撃で防空壕に避難。4時ごろ解除。夕食。

29日 晴天

絵画会館前にて小銃、軽機の腰ダメ射撃。

午後、酒保にて万年筆を買う。4円。(パイロット)。明日は初年兵入隊(4月入隊者)入隊準備。

13時半、警戒警報—空襲警報。敵機来る。焼夷弾いたる所に落下。大火災だ。

えんえんと燃える。大変だ。

30日

3時ごろ、解除。焼夷弾で帝都東京は大変だ。B29だ。医務室に待機。壕の中で暮らす。大雨となる。30日は若干寝ただけで警戒警報だ。

解除になっても御所救護班は配置のままだ。

営舎で4時まで寝る。

俸給11月分、16円87銭受け取る。貯金6円する。

今日も初年兵入隊せり(北海道より)、九州、全国より来る。

12月

12月1日より起床時間が6時30分となる。

1日

舎後の豪の整理。

対空射撃と学科

2日 晴天

小銃軽機の試験射撃。戸山の射撃場にて俺は第2的の記点手(=記録係)をせり。

家より小包来る。腹巻、柔道着、風呂敷、毛糸チョッキ、お金、煙草7ケ、つり紙(チリ紙)

若干。感謝、感謝だ。特に煙草は母と貞子(=妻)が心配して中に入れたと言うことだ。

12月2日 晴天、晴れなれど風寒し

昼食は美しい富士山を眺めながめて。真っ黒ごけのコウリヤン飯だ。

対空射撃の学科中、警戒空襲。とうとう敵機来る。

ある近衛兵の軍隊手帳

爆弾投下。大宮御所で次の命令を待つ。7時ごろトラックにて夕食来る。帰隊。浦上上等兵に飯をもらって腹いっぱい喰う。久しぶりだ。

5日

被服庫の使役。

12月6日

午後0時10分 警戒警報。

7日

警戒警報。野球場にて焼夷弾の試験。外苑に豪掘りに行く。兵器倉庫の監視に行く。

8日

(帝都の大空襲)

大詔奉載日 (=たいしょうほうたいび、大政翼賛の一環として1942年から実施された国民運動)。過ぐる3年前、ハワイ攻撃せし記念すべき大東亜戦争開戦の日だ。日本国民として忘れることのできない日である。情勢は一変して帝都の大空襲である。多い日は3回、4回と来る。

御所救護班の準備等をせり。

点呼後外苑に豪掘りに行ったが俺は医務室に行き命令を待つ。敵機ではなく友軍機の別名とのこと。

医務室に毛布を持って片付けが大変だ。命令も変わる。結局は服装は師団長命令で御所派遣兵は第2装着用寝具を持って医務室待機となる。

9日 晴天

午前3時15分、夢を破って警戒警報発令、直ちに大宮御所 (=昭和天皇が皇太后 節子のために1930年に造営したもの) に行く。解除になり医務室に帰る。又寝る。9時中隊に帰り朝食後、医務室へ。10時又警報。10時半御所に帰れぬ。御所も大変だ。ダボラを吹いて。毎日これでは大変だ。これでも良いと思う。

召集解除の話が2-3日前より出る・本当であればよいが。日時までも言う者がある。24日とか……。初年兵が来るとか。

本日は天気が良い。故郷では毎日祖母、母、貞子、田に出て稲こきであるが女手で大変な

ことだ。早く帰って増産方でご奉公することだ。午後8時警戒警報。御所に行き、解除後帰隊。

10日 秋日和の良い天気だ。

医務室待機で隊に帰る。

洗濯、入浴。3時 裏川をはじめ戦友とだぼらで暮らす。夕方より又剣術だ。

午後7時30分、警戒警報。敵機来る。連隊本部へ命令受領にに行く。

寒い、寒い。帰ったのが10時半。3時半頃又来る。B29だ。

命令受領に行く。帰って7時30分。

1時間余り、寝る。

軍記教練だ。観兵式の予行だ。

俺の嫌いな軍記教練だ。又警戒警報だ。

12日 晴天

医務室に行き

大宮御所、青山御所、表町御所。中隊の主力は服務し

俺は足痛く防具直しをする。

6時に点呼終わり7時前就寝したとたんに警戒警報。医務室に行き解除で帰り。

又警戒警報。御所に行く。警戒警報2回もある。困ったものだ。1時ごろより雪降り、初雪だ。

真っ白になる。寒さは加わりこれ又困ったものだ。

9時ごろ就寝。寒さはこたえる。5尺の寝台に藁布団に横たわる。

13日

雪とける。良い天気だ。

午後1時10分警戒警報。直ちに医務室に行き空襲で御所へ行く。解除後も待機せり。5時30分帰って寝具を医務室に運ぶ。7時ごろ寝る。3時、警戒警報。待機。解除後4時より6時まで寝る。

久しぶりに睡眠不足を補う。

松原軍曹の使役、1日を送る。

15日 晴天

杉原軍曹の使役。大隊本部にて使役・・・の補足など1日を送る。入浴。

ある近衛兵の軍隊手帳

点呼は6時、早く休む。今夜は来なければいいがなと思う。(良いのにな)。

16日 晴天

久しぶりに敵機来らず、休む。

軍事訓練大隊の観兵式の予行だ。

俺は大宮御所上番の服装で服務。

杉原軍曹の使役で大隊本部事務室へ遺言状を書き、班長に出す。7時30分休む。

17日 日曜日

晴天、朝 連隊本部の掃除だ。

午前 班内の掃除。2時30分入浴。

酒保に行く。吉田上等兵、浦川上等兵、新上等兵。杉原軍曹の使役。

18日

陣営具の検査。机、椅子等の。

診断を受ける。リュウマチとのこと。困ったものだ。

12時、警戒警報発令。中隊の防火隊で班内を警戒する。五中隊石利新太郎、六中隊山崎清、七中隊貞田明定、24時、警報発令 防空壕に入り。半時間で。帰って休む。

19日

連隊の銃剣術。営庭 I 杯だ。

12時半、警戒警報発令。

20日 晴天

8時起床となる。警報のため。軍事教育集会。又警戒警報令。

直ちに配備につく。1時より代々木練兵場にて観兵式の予習。連隊、軍記、教練、銃剣術だ。

勲八等勲記番号第 227 万 1912 号

支那事变従軍記章第 104 万 3 千 6 百 83 号。

夜 20 時警戒警報。

21 日

軍記教練の予習大庭中尉の指揮で大東亜戦に入っの恩賞。

初年兵来る。三班にも 8 名来る。

9 時 30 分警戒警報発令。

22 日

6 時 30 分 起床。弾薬庫の使役に出る。舎前舎後の防火用水の水をかえる。

12 時 10 分発令。医務室に行く。第二派遣隊で小野寺見習士官の指揮。

36 名大宮御所、表町御殿大井馬場に勤務セリ。7 時 30 分衛兵上番

現地教育終えて火鉢を囲み待機。

7 時頃より寝る。朝 8 時まで 25 時間も寝る。

27 日 晴天

御殿にて 12 時 5 分、警戒警報発令。直ちに空襲警報と敵機 B29 機編隊に分かれて来る。波状攻撃だ。約 50 機来る。友軍の戦闘機も飛び立つ。敵機に体当たりして反撃する。俺の目の前で B29 機真っ赤に燃えて落下する。残念ながら友軍機も 4 機もやられた。情報によれば、B29, 15 機も落とした友軍機が 3 機やられたとの事だ。午後 2 時 30 分、解除となる。

宮家のポンプ小屋の豪掘りをする。

宮家より煙草「朝日」3 本、ホウヨク 1 本、サツマイモ 3 ケ受ける。

夕食後早く休む。又々 9 時 30 分警戒警報。配置に付く。半時間後解除。

敵機来らず。朝まで休む。

28 日 晴天

大宮御所にて豪掘りを行う。

29 日 晴天

大隊の力号訓練する。(力号観測機は、第二次大戦中に日本陸軍が開発した観測機)

神宮外苑にて中隊全員でこしらえる (=作る)。

中隊長、兵器の取り扱いで訓示。

30 日 晴天

(班長になぐられる)

ある近衛兵の軍隊手帳

全師団の力号訓練

内務衛兵に出る。軍旗歩哨だ。

3回立哨して交替して帰隊。

班内の掃除、夕方まで。

昨日、今日と班長になぐられる（いわゆるビンタ）。感無量なり。情けない。

その上、士官室で座禅三時間。足が痛い。

俸給 18 銭受け取り、貯金 15 円なり。

煙草つけるマッチの配給あり。

明日の内務検査の準備。

10 時より下士官室にて座禅。班長訓示は、身にしみた。

12 時就寝せり。

医務室係の申し受けに行く。

31 日 晴天

（警戒警報、警戒警報、警戒警報の連続。帝都も毎日毎夜空襲）。

5 時起床。医務室登板室へ。火をたき、見習い士官、下士官大名週番。

日直 2 名。俺は当番の飯をつけて持っていく。バタバタだ。

中隊長は内務検査官で大変である。

見習い士官よりリンゴ 4 つ、みかん 5 つ、小林班長よりリンゴ 2 ケ、中隊よの下給にて菓子 2 ケ、リンゴ 2 ケ、みかん 5 ケ渡る。久しぶりに満腹せり。

週番上等兵は餅、りんご、みかん菓子等くれる。

大晦日を祝う。家では菓子果物はない。小さい妹は菓子、果物を喰っていないと思う。

医務室にて餅を焼いてリンゴ、みかん等上等兵（今市出身）と 2 人で。うどん、そばも出る。

大変な年であったが、昭和 19 年も終わりとなる。

7 月 15 日、浜田に入隊、転属して名誉ある近衛連帯七部隊。なんとも言えぬ所であった。感無量。

警戒警報、警戒警報、警戒警報の連続。帝都も毎日毎夜空襲だ。

早く寝る。明日は正しい戦勝の年。昭和 20 年を迎えることにしよう。

9 時半就床せり。10 時、空襲だ。俺はそのまま寝る。

昭和 20 年

元旦 晴れ

2時ごろ初帝都空襲だ。焼夷弾投下のため至る所に大火災が生じている。6時起床して医務室へ。

朝食は雑煮で、餅を焼いて喰う。リンゴ、ミカンも折詰、白飯だ。魚、虎屋の羊羹、ゆで卵の半分、数の子、コンブ、人参、カランマ等々、雑煮腹一杯喰う。

入浴に行く。8時50分、真田一等兵より煙草35本もらう。昼食も雑煮して喰う。夕食は大した事ない。朝は汁あり。昼食も夕食も汁も飯もなし。

8時帰隊して寝る。

2日 晴

6時起床。飯とすき焼き、腹一杯だ。昼はうずら豆で飯を喰う。夕食はすき焼きだ。8時30分帰隊し皆は外出、外出と騒いでいるが、俺は医務室の当番だ。

3日 晴天、割あい暖かいとなる

6時起床 医務室へ

見習士官（医官）（軍医）3名、下士官4名、週番、日直当番2名計11名の食事分配をして9時過ぎ帰隊する。

4日

5時40分起床して医務室に。

昨日交替した谷口上等兵と共同で食事分配、昼食は白い飯を腹一杯喰う。

将校集会室より健胃散買う（2錠）2ケ、70銭及び 皮膚薬50銭。

19時20分警戒警報発令せり。

小便に度々行く。1時間に1回ずつ、必ず6～7回。3階より下まで大変だ。

5日 晴天

5時10分警報。医務室に行く。昼食はうどん。団子に肉だ。御馳走になる。夕食はいわしだ。当番なればこそだ。

もう明日だけで、明後日より訓練訓練だ。

夜9時15分警報発令。豪に入る。1時半も居る。便所へ変わらず7回行く。

6日 晴天

5時18分警戒警報発令。

ある近衛兵の軍隊手帳

医務室へ。ここも本日限りだ。

洗濯。昼も夜も腹一杯喰う。

全く喰うことが楽しみ。寝ることも。

兵隊は夕食の最中に高見兵長、申し受けに来る。

夜7時30分警戒警報発令にて上等兵とにぎり飯で会食。

貞子より便り来る。武道に早く会いたい。

久保田富芳さんへの召集が来たとか（1月30日入隊）。博美君も予科練で2月頃入隊との便りだ。隣も大変だ。富芳さんもさぞ驚かれた事であろう。隆子さんも一番大変だ。子供5～6人も抱えて。全く同情する。

7日 晴天 日曜日

5時40分警報発令。6時30分起床して大宮御所第二派遣隊に戻り、八中隊4名、三班より黒田班長と俺だ。早速準備。8時半集合。守衛上番者と一緒の上番する。青山御殿だ。宿舎に入り、大宮御所の消火、防災の現地教育を受ける。不寝番、1時間立哨せり。

警報なく朝まで寝る。御所にて。

8日 晴天

大昭奉載日。観兵式。宮城の広場。

俺は派遣隊で青山御殿へ二大隊の混成隊八中隊より黒田軍曹、俺、森井、山中、藤重の5名、計25名。警報なし。朝より寝ることだ。

15時より16時まで電話当番。夕食8時。8時より9時まで不寝番。警報なし。朝までぐっすり寝る。警報がなければテンハオ（頂芳＝中国語）だ。昼でも寝ることが一番だ。

9日 晴天

7時起床。帰隊準備。

9時交代要員来る。帰隊。

1時10分、警報。中隊防火部で班内舎前。

敵機来る。1群、2群、3群と次々来る。我々の上空を通過。友軍機が体当たりをする。感謝感激だ。4時解除になり医務室で洗濯。

10日 晴天

1時40分、発令。4時10分又発令。1日に4回も来る。敵機が。困ったものだ。

午前、守衛派遣隊へ行く。

午後1時40分、営所前で昨日帝都上空で敵機に体当たりをして散華した雪軍曹の霊を送る。感無量だ。8時ごろボーイング来る。警報だ。

11日 晴天、寒い寒い日だ

午前、東宮御所及び青山御所へ派遣先の毛布を取りに行く。

2時30分、警戒警報発令。

班内、寒い寒い、困ったものだ。これより1～2か月寒い日をおくらねばならぬ。

朝鮮にいる啓一郎君よりお便り来る。

12日 晴天

今日も早朝より2回、夕方1回、敵機来る。全く毎日何回も来るようになる。連隊本部命令受領。黒田軍曹の伝令。起床1時間延期で7時30分。

将校室の掃除をせり。

絵画館前にて手りゅう弾の投てき訓練。

13日 晴天

午前、平塚に飛行機射撃に行く。軽機班10名。小野田少尉引率。昼食だ。13時集合。信濃駅より電車にて東京駅に。東京駅発15時10分、品川一横浜通過、1時間半。平塚駅着。直ちに営舎に入る。牛乳5勺余り飲む。早く休む。

14日 晴天

射撃。風船射撃が1分から修正射撃。固定射撃等々。

夕方4時営舎に帰り休む。

牛乳、乾パン、饅頭、みかんあり。

15日

8時30分集合。寒い寒い。平塚の風だ。午前中2分角の射撃で3発当たる。

11時30分、営舎に帰る。1里の行軍の後、平塚駅へ。5時40分発で帰京。軍隊平塚より駆け足で汗だくで帰隊だ。

ある近衛兵の軍隊手帳

パン2ヶ、煙草の配給でくたびれ(=疲れ)も直った。

16日 晴天

朝の間稽古をなまけたので服部少尉に殴られる。召集兵の戦帰り勇士も近衛連帯にはくたびれた(=疲れた)。

午前契機の練習。4時帰り入浴。

10時頃、警報だ。妻、弟より便り来る。

17日

神宮外苑にて豪掘り1日中。

10時30分警報。御所救護班で医務室へ。

18日 晴天

午前神宮外苑にて豪掘り、8名で。上の土は石だ。十字円ピで元気良好だが風寒し。
(十字=つるはし、円ピ=シャベル)

19日 晴天

外苑で号を掘る。

午後手琉弾、投摘。

大隊長、野球投手の大学生を指導に来る。夕方まで。

20日

全員、豪掘り。10時半まで。手琉弾投摘練習。

21日 晴天

日曜日。酒保に行きサイダー2本5銭で飲む。夜洗濯。1時入浴し、寝る。

みかん、饅頭、煙草配給あり。

22日 晴天

寒い、風が寒い。9時ごろ投摘。

第四匍匐。腰や腹が痛い。服も泥だらけ。午後も同じ訓練だ。週1回のうどんの配給。パンの配給もあり。

23日 晴れ、寒い寒い

午前、代々木練兵場二大隊の手琉弾投擲。第四匍匐の競技会。匍匐には出場する。8分50秒なり。一番早い者で5分30秒。遅い者で12分。腰も腹も大変くたぶれた。

午後1時20分、新宿にて防衛会。失礼する者が多いので目立たず。

24日

演習は足腰痛く休んで肥くみの使役に出る。

26日 晴天

代々木にて地雷の処理の方法。午後、10時、2時、3時警報。久しぶりだ。

高射砲の音、寢床で聞く。

27日 晴天 土曜日

(多数の敵機飛来。爆撃、点点と炎上)

昨夜の警報のため朝8時まで寝る。9時30分より体力検定。

被服一切の補修、その他。2時30分警報。

敵機相当来る。いたるところ爆撃される。点点と燃え上っている。

28日 晴天、日曜日

午前8時、集合で外出。

近衛へ入隊依頼初めて外出だ。松原上等兵と3人で外出。赤坂目付まで歩いて電車で靖国神社に参拝。警報発令、10時5分。直ちに帰隊せり。

午後入浴4時30分まで。就床せり。3回警報あり。敵機来る。爆撃。大火災を見る。東京も焼け野が原になるのではないかと心配する。

29日 月曜日 晴天

外苑にて鉄条網の破壊の演習だ。午後、代々木練兵場にて方向維持の演習。

煙草30銭、パン1個、下給品。

4年兵、3年兵が初年兵を鍛える。初年兵は毎日なので大変だと思う。

30日 晴天

代々木にて毎日のように各種の演習だ。戦闘教練、カケ足、毎日カケアシで足痛く。

ある近衛兵の軍隊手帳

手りゅう弾投擲。

31日

1月分俸給16円87銭受け取る。小包届く。もち米と大豆の炒ったのを2升ばかり。全員で食べる。みな喜ぶ。

2月1日 晴天

午前、歩兵操典改正で学科一向にあたまに入らず。何を聞いても解らない。

11時警報発令。兵器庫に行く。

2日 雪

1時ごろより雪降りとなる。5寸位積る。久しぶりの雪らしい。学科、陣営具の使役をする。入浴、一番風呂に入れる。

3日

母より便りをもらう。良い天気なので洗濯。つめたい、大変だ。午前学科、三ヶ本少尉から。週番となる。夕食の飯上げ、煙草の配給。飯の多い少ないで各班より文句が出てたいへんだ。

4, 5, 6, 7, 8, 9, と1週間の勤務だ。

煙草、うどん、パンの配給。三度の食事、大変である。

雪降りと週番の一週間であった。

10日

中島兵長と交替。昼食の食事を下げて申告。毎日警報だ。昼3回、夜5回位来る。

11日

紀元節。御真影 奉拝式。

昼食後、手箱の整理。煙草卷等等。

12日 晴天

使役に出る。

13日

寒い寒い。東京は今頃が一番寒いらしい。
小包来る。母より米、豆来る。炊事に勤めている。
小山厚郎上等兵にもち米をもらう。

14日 晴天

大宮御所、第二派連隊へ行く。司令三ヶ森少尉だ。岡田軍曹、月田伍長以下 25 - 26 名は六中隊より大隊長訓示後、出発交替せり。到着と同時に警報発令。大宮御所へ行き警備につく。半時間で解除。
青山御殿に帰隊せり。隊長以下、火鉢を囲んでだぼらを吹く。昼食は相当あり。兵隊は喰う事が大事だ。

15日 晴天

青山御殿にて起床。

16日晴天

(敵機波状攻撃)
早朝から警報だ。B29 と艦載機等など配置につき、朝食は 12 時半頃。
俺は中島兵長と舎内監視だ。昼食後下番
敵機、波状攻撃して来る。

17日 晴天

週番に又つく。服部少尉、田倉伍長、2 人共悪い奴で困ったものだ。1 週間頑張らねばならぬ。
上番にあたって服部少尉に殴られる。
飯の上げ下げ。煙草、パン、うどん配給。
雪降りのようだ。18, 19, 20, 21, 22, 23 日と週番だ。

24日 土曜日

(第三中隊全焼、衛兵所も)
(焼夷弾、落下。手の付けようがない有様)
いよいよ週番下番だ。
つらい 1 週間だった。

25日 雪 3尺位積。大雪だ。

毎日敵機来る。大編隊。低空だ。

我が部隊、機関銃にて敵機をおどす。

焼夷弾、落下。火、火、火、火、火と焼ける。手の付けようがない有様だ。

木造の第三中隊全焼。衛兵所も焼ける。

都内はこれ又大変、大火、大火、大火、大火、大火災だ。

26日

風邪気味。面白からず。

青山御所派遣司令管、森少尉。

27日 晴天

(三笠宮殿下、一間位近くで俺一人拝顔、返礼に感激)

早朝より敵機来る。1時半、御車寄せの雪を侍従長(中佐)の命令で除雪の時、三笠宮殿下が来られたので(陸軍大学長)一間位近くで俺一人拝顔。敬礼をし返礼を受けた。光栄の至りだ。

母より、猪小路より、妻より、便り来る、3通。

貞子からの手紙に10円入っている。有難う。感謝の他なし。

兵隊は喰うことだ。夕食は雑炊、しかも飯盒の半分だ。

俺は家では茶碗に1杯だ。(少ない)。勝った、負けたの大戦争ではあるが、腹一杯喰って御奉公したい。

祖母のこしらえた雑炊、焼餅は有難いことだ。

帰ったら何でも喰う。召集除隊の日、勝つ日を待つだけだ。

28日 晴れ

起床と同時に下番準備。帰隊せり。兵器検査。俸給16円87銭。5円貯金する。

3月1日

舎前の豪掘り。

2日

焼け残りの材木を準備して入れる、運ぶ。

3日

(大火災の大東京)

(B29 来る。焼夷弾を落とす。大火災の大東京)

4階にて中隊長訓示。

又週番につく。

9日 晴天

22時10分、警報発令。B29 来る。焼夷弾を落とす。大東京が大火災だ。炎、炎と燃える。風速25メートルの強風でどんどん燃える。5時間も次々と。都は火のため昼のように明るい。

10日 晴天

昨夕から寝ていないので午前休養だ。

原兵長(衛生兵)と逢う。能義村出身とのことで話す。

阿部兵長と週番交替、下番せり。

午後4時入浴する。第一洗。

11日 晴天 日曜日

日曜も何もない。日曜日、土曜日、特に敵機来る。

12日 月曜日。

明13日の髄検準備、大変だ。

夕方、時計を探したが出ない。

13日 晴天

二装着用、舎外班内の掃除。

私物の整理。師団長来る。10時終わる。待望の随検だ。午後1時、師団長視察。警報発令。

俺は命令受領、伝令だ。本部前の防空壕に入る。

14日

6時起床して、駆け足、外苑1周する。

青山御所、第二派遣隊上番服部少尉だ。

近藤、藤田軍曹25名。警報なく1日終わる。

ある近衛兵の軍隊手帳

少尉のこまかい事に気づくこと、がやがややかましいことを云う。

困った少尉だ。

15日

(真っ黒に焼けた東京)

3時起床し赤井黒三十八部隊に朝食を取りに帰る。真っ黒に焼けた東京だ。

敵機動部隊、日本本土接近との事だ。

部隊総員、非常配置だ。7時ごろより12時ごろまで立哨する。

司令管用の豪掘り4名で夕方帰る。夜12時より1時不寝番。

16日 晴天

6時起床。交替準備。7時交代。入部隊と。朝食、私物、その他整理。

4時入浴。

17日 晴天

(敵機、本土空襲の兆候あり)

午前2時、敵大機動部隊艦載機。

サイパン島、ボーイング29、合して本土空襲の兆候あり。警報発令中。防火班にて4階のぼる。情報悪化のため、全員起床配置につく。

10時集合して小石川区の破壊消防に行く。

家を壊す。立派な家も何もかも。4時半、作業おわり、行軍にて帰隊する。3里位はある。

くたびれる。足が痛い、腹は減る。

18日 日曜日 晴天

6時起床。朝食後、週番を替り上番だ。警報は毎日頻繁に来る。

17日は硫黄島、玉砕、全員突撃戦死。

19日、20日、21日、22日、23日 飯上げ、分配・・・だ。

24日 土曜日

阿部兵長と交替。下番だ。

敵機来る。配置につく。1時半解除。

25日 晴天

8時まで起床延期。週番下士官、中瀬軍曹、三班使役。肥え汲み、五人で。

26日 晴天

いい天気になる。舎前の豪掘りだ。

仕事変りで腰が痛い。

27日

同じく豪掘りだ。

28日

破壊に町に出る。品川区、きれいな立派な家屋をどんどん壊す。

部隊では豪掘で。

食缶（大きな食缶）なくなり大変。分配少し。我が国帝国軍人も困ったものだ。

これで日本は勝てるのかと思いつつ、2人前も喰って民家に入り。雑炊を腹一杯喰った奴も居る。増谷一等兵だ。庄下伍長、岡崎4名でなくなった飯盒を探しに行く。民家へ。ビール5本、するめをよばれ、たいした大家だ。

東京の空襲下でも親切なお方、物資豊かな人もあるもんだと感心する。ビール久しぶりだ。

29日 晴天

昨日に続いて破壊消防（家こぼし）だ。

15時終わり、帰隊入浴だ。このころより南京虫が出て夜もねられぬようになる。

30日 晴れ

舎前豪掘、1日中。

敵機偵察に来る。警報発令だ。

31日 晴天

（転属の内命）

豪掘。小杉少尉指揮で阿部兵長と交替して又週番だ。

人員を掌握して夕食の分配だ。

士官は俺の嫌いな服部少尉、同じく水口軍曹だ。

ある近衛兵の軍隊手帳

向う1週間は大変だぞ。

3月俸給16円87銭。

服部少尉、転属の内命あり。山崎准尉と交替で一安心する。内務衛兵と派遣隊で中隊の人員は少ない。警報で週番も防火隊、兵器へ行く。

4月 花咲く4月、いい事ないか

1日 晴天

週番変りなく、飯上げ分配等。

大宮御所、守衛中隊より65名準備だ。

2日 晴天

(密集の東京町中の破壊消防活動)

中隊の大部分は破壊消防だ。

甲斐上等兵、黒田軍曹に叱られ昼食後4階より飛び降り、大騒ぎとなる。直ちに入院する。

服部少尉の送別会あり、週番も若干のむ。

警報2回もある。

3日 晴天

5時起床。守衛上番で大部分の兵力。

4日 週番変わりなし。空襲だ、空襲だ。

5日 ヶ

6日 ヶ

7日 ヶ

8日 晴天

師団長、離任式。新任は森 武 閣下。

第二装着用。儀式における軍装だ。

9日

桜咲き初める。明日あたり満開となる。

春雨来る。大雨だあ。破壊消防に出る。大雨の中を。

夕方くらくらなるまで。午前には黒田軍曹と材料運搬。
午後は俺が長となり運搬する。雨の中、ビジョ濡れた。

10日

今日も雨だ。昨日に続き破壊消防だ。
雨とゴミで服は大変だ。東京の人も親切だ。
お茶、お菓子をよばれる（=ごちそうになる）。警報、雨の中をトボトボ東京の町中を帰隊。
昨日、今日は初年兵の入隊の準備。

11日 晴天

大雨止む。大宮御所の直轄の第二派遣隊。
山形少尉長で25名上番せり。赤坂離宮前で
我々は東宮御所の防災だ。警報警報だ。

12日 晴天

警報、配置につく。大変だ。
御所上の対空監視だ。
朝食後、8時より12時まで警報、空襲の連続だ。
4時間立哨する。

13日

(火の海の東京、死人多し)
櫻は満開だ。岩野兵長が居ないとのことで大騒ぎ。事故無く下番せり。
発令。11時軍隊直ちに破壊消防に行く。
真夜中、B29, B24等百50機襲う。
東京、火の海となる。全く大震災を想いはせる。火の海だ。
4時半、解除となり寝るも、焼けた人、死んだ人、大変である。

14日 晴天

司団長、森閣下視察。
戦友で新池田上等兵、伊勢警備隊転属で出発。
煙草を餞別にやる。永遠の別れで武運長久を祈る。

ある近衛兵の軍隊手帳

15日 晴天

(ルーズベルト、急死) (東京、近いうちに焼野原になる)

6時起床。派遣隊息の準備。

三ヶ本少尉以下 25 名、黒田軍曹、青山東御殿第二派遣隊に行く。

ルーズベルト、急死。13日午前5時35分。

兵隊は喰うことには大変なものだ。懸命だ。御所の草をつんではならないのにつんで来ては醤油もないのに煮てそのまま喰う。

箸箱を作る。箸は無論のことだ。大戦争だ。大消耗戦だ。23時前警報、敵機百50機本土へ近接中と単機毎日帝都へ来る。

焼夷弾、爆弾落下。至る所大火災発生。炎炎と燃える。照明弾、高射砲で迎え撃つ。

友軍機とび立つ。全く戦場だ。第3回目の大空襲だ。今後益々やって来て東京が焼け野が原になるのはそう遠くではないと想う。

16日 晴天

大宮御所にて部隊に帰る。

安達、片山と3人で帰りに雑炊食堂に入り2杯、3杯、15銭。うどんの切った汁だ。

警報、2、3度あり。すぐ寝る。警報その後ぐっすり寝る。派遣隊は満点だ。

17日 晴天

(赤坂離宮の防火消火活動)

下番、9時、警報解除。

朝食後、牛込柳町へ破壊消防に3里の行軍で行く。

赤坂離宮の防火消火に行き、11時30分帰隊。

18日 晴れ

破壊消防、昨日と同じく牛込区。

トラックで材料運搬。黒田班長が長で6-7回運ぶ。5時半頃までだ。

全く大した近衛七部隊だ。

19日 晴れ

東宮御所、第二派遣隊で準備、出発せしも命令の違いで直ちに帰隊。

空襲警報発令、10時30分解除。

山 崎 勇 治

午後久し振りに何もなし。妹、藤枝に便りを書く。

群馬県勢多郡黒保根村 近衛師団赤坂隊宮本隊 堀尾忠太郎

20日 晴

東宮仮御所第二派遣隊上番せり。

小形少尉、宮下軍曹、月田伍長。大風だ。

21日 晴天

第二派遣隊、下番せり。

午後防火隊、第四班 部隊本部前に集合訓練。

月例身体検査に行く。体重 65.2kg

22日 晴天 日曜日

(上官に殴られる日々)

警報3回。

23日 晴天

御所直轄第二派遣隊長三ヶ本少尉、近藤軍曹、月田伍長 25 名、正午警報発令解除。久しぶりに来ないので寝ることだ。

24日 晴天

派遣隊警報で配置。

午後、自動車隊。豪。散兵、豪掘り。

25日 晴天

派遣隊、下番、帰隊。

直ちに破壊・消防で出るも、運搬する貨車がなく、外苑で日なたぼっこをして休む。

破壊・消防より5時帰隊。入浴、早く休む。

26日 晴天

班の移動で、第三班は第一班の舎前に7時30分より大宮御所内の豪掘りだ。

3名で3交替で。3大隊は23時より明6時までになり、帰隊して寝る。午後の昼は眠れない。

福岡市吉塚町4丁目805 安武直満 様

就眠点呼。夜業のため出発準備せるも。庄下伍長と交替休む。

27日 晴天

守衛勤務。都立五十五内務衛兵で兵力は少ない。俺は休んだ。

転属の話あり。この頃は良い天候。

近衛兵七部隊にはこりこりだ。早く出たい。

近衛連隊東部七部隊、在隊6ヶ月、全く大変であった。ああ、ああの2文字につきる。

1・忘れられぬ思い出となる。都立55転属当時の苦労は大変であった。各個教練、銃剣術の基本。朝、昼、晩と全く初年兵当時より大変であった。

2・水口軍曹の奴、島根県の益田出身だが、困った奴であった。朝より晩までガミガミ。誰も嫌っている。水口直次郎軍曹、顔を見るのもいやだ。

3・中瀬軍曹には相当なぐられた。週番の時だ。入隊以来の第1印象の悪い奴であった。

その当時は週番で伍長ばかり、竹刀を持って大した気合いをかけていた。俺が週番の時、電球玉をだまって備用したとの事で下士官室でなぐる、なぐる。終生忘れられぬ顔だ。人相の悪い奴でいつか反動してやらねばと。

4・田島伍長は乙幹だ。甲幹落第した奴だ。

週番の時に、飯のことで詳しくは書き切れぬが、あの奴と思えば必ず想い出す野郎だ。

5・服部見習い士官の奴だ。これも週番の時だ。

隋検前だ。服務が悪いとかで痣の出来る位なぐられた。このやつも忘れられない奴だ。

6・次は黒田亀雄軍曹だ。顔は赤顔で小さい男だ。班内の暗い所で召集兵2-3人で飯盒で飯を喰っていた時の事で、寒い寒い冬に召集兵、下士官室にて板の間で5時間位も座らせられ、足は痛い、便所に行くも足が立たず、泣き泣きはって行き、帰って又座らせられたものだ。

30歳の男、全く泣かせた。余りと言えば余りだ。

別けのわからぬ男とはこの男のことだ。

山口県出身の野郎との事だ。次に金銭出納簿。現金より12銭違っていると殴られた。これも忘れられぬ思い出だ。

7・山形少尉。これも悪い奴であった。

27日の続き。

(転属が我に命あり)

阿部上等兵他4名。一号作戦へそれぞれ出発した。
永遠の別れである。蹄鉄工場へ行き、カスガイ。1円50銭でこしらえた。
俸給4月分16円87銭受け取る。
准尉より転属の旨を聞く。早く知っていることだ。
待望の転属は召集兵の待つに待った転属が我に命あり。これ程の嬉しきことはない。
東部七部隊近藤連隊、鬼よりこわい。
いやだ、いやだの音がする。全く苦勞の連続であった。

28日 晴天

午前、転属の準備。被服を返納せり。
兵器の返納、私物の整理。
准尉より軍隊手帳、貯金通帳を受け取る。
貯金百23円50銭。
岡田班長、黒田軍曹の2人、下士官室で送別会をしてくれた。
カタクリをこしらえてのませてくれて話をした。
永久の別れだ。勝部上等兵煙草（ほまれ）6本。煙草入れ（手製）を2個入
菓子を6ヶくれた。
カタクリを飲む。腹いっぱいになる。
森井上等兵と二人で酒1升のんだ。割前3円出したが受け取らないので1円支払う。上田
上等兵よりほまれ80本、洗面袋、煙草入れなど選別でくれた。有難いことだ。
土尾に御礼返しに石鹸箱、針箱（市内で買い入れた）と3円をおくる。私物を整理せり。

29日 晴天

（転属で生き返った）
（青山四丁目から上野駅まで付近一帯一面焼け野が原）

天長節、警報3回もだ。
敬礼、中隊長に申告。
山崎兵長以下34名の者は4月29日付をもって新設要員として東部三部隊へ転属を命ぜら
れました。ここに謹んで申告致します。 敬礼。
転属で生き返った。訳のわからぬ奴ばかりであった。
中隊長、山崎准尉、土屋上等兵との分かれが淋しい。いい人であった。三ヶ森少尉、小野

ある近衛兵の軍隊手帳

寺少尉はいい人であった。そうは言うとも、兵舎との別れは別である。

午後12時半、出発の予定であったが警報のため15時となる。山形少尉は最後まで出発するまでガタガタ言う。週番肩章をかけて悪い奴だ。

15時舎前整列。中隊長以下の見送りを受けて万歳、万歳、本部前集合。連隊長副官の訓示を聞き懐かしい??? 東部七部隊を出る。

何ということである。青山四丁目から地下鉄に乗車、上野駅まで付近一帯一面焼け野が原。一望、どこまでも見える。

上野駅で待つこと2時間。新聞を買って読む。広告までも読む。18時30分上の駅発列車は満員のようだが、軍隊は別だ。

22時、宇都宮着、下車。行軍にて県庁前を通り、1里余りで三十六部隊に入り、一夜を明かす。

30日

靖国神社臨時大祭。起床6時。点呼を終えて私物を持って部隊本部前集合し編成。

俺は一中隊に、俺に次ぎ下士官12名、第四班に入る。

山崎兵長、市丸一和、加来、吉浦、陽田、原谷、藤塚、原本、以上上等兵。中野、小田、桐谷、齊藤一等兵。

兵長1名、上等兵8名、1等兵2名、2等兵1名。

破壊消防、材料運び、豪掘りの使役。警報、毎日。全く目のあてられぬ現状であろう。

浦上等兵、残念がっていたが、可愛そうな男であった。

原峰雄、山崎伸、堀尾忠次郎、等等想いだされる。近衛連隊のような不寝番はなし。全くいい気持ちだ。然しシラミ虫が多くて閉口だ。

栃木県宇都宮市東部第三十六部隊

飯山隊 第四班 山崎重一郎

申告 陸軍兵長山崎重一郎以下12名の者

昭和20年4月30日を以て飯山隊第四内務班に編入を命ぜられました。

ここに謹んで御申告申します。

東京都赤坂区青山北町

東部第七部隊牧野隊師団歌

近衛

- 1・禁けつ守衛の重任をかしこくもおい持って
日夜練武にたゆみなき志気旺盛な我が近衛
- 2・しめらみこと（天皇）もミコの時（親王）
在らせたまえし光栄を思い出しては奉公の（精神）こころいやます我が近衛
- 3・お召に応ずる若物（壮丁）の数の内より選ばれて
星に櫻の帽章を誇りにいさむ我が近衛
- 4・一朝国に事あれば砲煙弾雨も何のその
身は君国に捧げむと覚悟は堅し我が近衛

5月1日 青菜の候となる

故郷より遠く離れた。

栃木県の宇都宮市。青菜は変わらず、東京より若干寒いと思う。

故郷では苗代の準備だ。多忙であろう。貞子に初便りを書く。ここの補充隊は本当にのんきでいい。

今日も召集兵が出たり、入ったり補充隊は特にはげしい。

洗濯、若干寝る。衛兵の学科、各個教練あったが失礼する。夕方、酒保に行き歯磨き3本、煙草も買い入れる。点呼が早く寝る。

2日 朝よりどんよりの天気 春雨が降り出した。

今日あたりは苗代のみやこ刈りでもしていることであろう。

今日も寝て暮らす。シラミ取り。7-8匹も取る。

困ったものだ。明日は衛兵だ。準備をする。

ココは飯も多い。副食もいいし、酒保には豆、馬鈴薯あり。弟、母上、戦友の土居に便りを出す。

3日

師団管区兵器倉庫、衛兵上番する。

司令浅野軍曹、営舎掘りは俺。

ある近衛兵の軍隊手帳

表門歩哨3名。第三中隊より弾薬庫歩哨3名。歩哨掘り計9名 連隊より離れた(1里くらいはある)弾薬庫だ。濱田連隊より初めてであった。

眠い。巡察は来てしぼる。

4日 晴天

今朝2時より5時まで3時間あまり寝ただけだ。9時交代する。

5日 雨しとしと。

いやな天気だ。演習を休む。

ドイツの将来で新聞がうめいている。

内務実施。検査、たいしたものでない。又寝る。寝て暮らす。

夕方酒保に行き、馬鈴薯を買い入れする。5個で9銭位だ。久しぶりに息子、武道のことを思い出す。

6日 日曜日 雨だ

召集兵入隊。

7日 晴天

久しぶりに良い天気。演習に出る。

初めてだ。肉薄攻撃の要領。棒地雷、箱地雷等等。

11時帰隊せり。今日もぞくぞくと入隊だ。

イ号、ロ号編成の兵隊だ。午後よりも召集兵 ぞくぞくと入ってくる。

8日 晴天

(小倉出張命令)

大昭奉載式。8時より中隊長訓示。

後、演習場にて教科。又寝る。明日より1週間の予定にて速射砲の修業を命ぜられることだったが、命令を見れば速射砲ではなく機関砲の修業である。

九州小倉西部第三十六部隊へ中隊より石村、三村、藤寺尾、12日14時出発。

9日 晴天

午前、小倉行きのため準備。午後内務実施。
中隊長の派視あり。昼は隊内、夜は魚、ご馳走だ。

10日 晴天

物乾場の監視あり。洗濯物の監視だ。
温かいので昼寝だ。皆は演習だ。午後頭が痛く面白からず休む。
本部経理室に行き、旅費を係りより27円30銭受け取る。
被服の支給もある。出発準備だ。

11日 雨天

被服を返納する。
給与通報及び割引券も山口曹長より受け取る。

12日 雨天

夕方の雨は大雨どしゃ降りなる。
いよいよ明日は出発。戦友と別れて市丸、加来、本井との別れだ。
永久の別れではないが、昼食会後軍装をして食事3食分。
初年兵さんが5-6名もかかってにぎり飯を焼いて準備してくれた。(4時、本部前集合。
三沢少尉以下23名。本部長、副官に申告。出発せり。駅まで1里以上行軍。途中休憩をし、
宇都宮より小倉までの切符買い入れ。16円(5割引き)。16時15分発だ。東京、上野、19
時40分。上野より省線電車で東京駅22時40分発。広島行き約4時間半余り。京都着11
時10分。大阪着12時15分。神戸、三ノ宮等は沿線、焼け野が原だ。驚いた。
17時15分懐かしい岡山駅着。水の補充、中国地方だ。
米子と云う文字も書いてある。22時30分広島着。警報で臨時停車だ。

14日 晴れ

2時30分広島駅発下関着8時。関門トンネル通過、門司にて下車。12時30分。小倉駅よ
り若干歩いて市電にて西部三十部隊前へ2時営内に入る。
教育隊本部前集合。各中隊へ。我々は第三中隊五班。
空襲警報、今朝より4-5回。退避。
私物を整理。点呼7時30分等々。

ある近衛兵の軍隊手帳

15日 晴天

点呼は5時30分。舎前、舎後。

下士官要員となり四中隊編入となる。

黒田明上等兵は平野隊で同じ中隊であったが、
中隊が変わったので違った。マルく太って元気な顔をしている。

1時間余りも話をした。四中隊は本保隊第五班。

身体検査。異常なしとの事。

ここよりの初便りを母と弟に出した。

教育機関は約40日の予定。剣番いめ79818

防毒面（被申）番号イ66728

金 百23円50銭

環境及び私物の整理。黒田明君来る、話す。

煙草30本もらう。30円預ける。早く寝る。

第4機関砲修業学生七百40名（全国より）来ている。

松江連隊よりも来ていた。

16日 晴天

点呼後、駆け足、敬礼等と大変だ。学生は朝食後班内の清潔整頓。8時30分より中隊長本保大尉の巡視。私物検査。

貯金通帳をあづける。9時終わる。

15日に続き部隊長殿に申告し、訓示を聞く。

終わって舎前にて中隊長の訓示。教官、助教の紹介等々。1日終わる。

神戸市神戸区雨麻筋町87

柴田準様方 山崎松次郎

堀尾忠次郎は七部隊吉田隊。

機関砲の名称等の服装は帯剣巻脚絆だ。

射撃準備、射撃の訓練。

入浴、久し振りに汗を流す。

機関砲のこと、一向に頭に入らず。

三中隊の黒田明君と話す。酒保にてパンをよばれる（=ご馳走になる）。

夜中、警報退避せり。

17日 晴天

7時40分、集合演習だ。

- 1・射撃準部
- 2・照準
- 3・弾薬充てん

午後も同じく。夕食後、軍歌演習

18日 晴天

午前、照準。昨日と同じ。入浴後学科。

19日 雨天

機関砲の分解、結合。雨降り。

学科、五班にて雨は大雨となる。

黒田君に頼んで手紙を出す。乾パン4枚、10銭。

20日 日曜日

昨日よりの雨やみ、晴れとなる。

北九州の朝風は気持ちが良い。

午前、照準に於ける移動目標の射撃適確なる射撃姿勢。

午後、築城の偽装。古い家の修理。

不寝番、三番 立哨、石村兵長と2人で。

21日 雨天

午前 砲の手入れ係だ。舎内の砲を班内へ。

普通分解、特別分解等々。

午後も同じ。洗濯、早く寝る。給与は何処も変わらぬ。

3度、3度カンラン、大根汁。飯は米と麦でやや白い。

昼はやや量が多い。夕食はコウリヤン飯で、赤い飯だ。

22日 雨天、梅雨なのか雨降りだ。毎日の雨、大雨だ。

ある近衛兵の軍隊手帳

午前 学科、照準などなどだ。

小倉市水道町2丁目 和泉友恵

午後 同じく学科。夕食後 水捨ての使役

黒田君と逢い話をす。

23日 晴天

今朝、警報2回。小倉、八幡の上空に来る。

高射砲の射撃でもものすごい。7時30分まで起床延期。

24日 ものすごい暑となり冬服では暑い。午前照準の教練。昨日に継ぎ半数の兵隊は薪取りに。

鋏、ひも買い入れ。1円20銭。

たきぎ取り。縄でかついで帰るのである。

4時半帰り、教練、学科、入浴。

黒田明君より大きな石鹸（洗濯用）もらう。

貞子が東京近衛へ出した手紙が宇都宮に廻り、小倉に廻送してきたので受け取る。1ヶ月前に出した手紙だ。

池田君からも来る。ハガキが。

25日 晴天 暑い日となる

大学、専門学校卒業の24日入隊の9名に対し4階にて学科、服の名称、着方等々教育する。

午後9名に対して各個教練、不動の姿勢。

右向け廻れ右。大学生の初年兵係とは大変な事になった。

全員薪取り。汗がダクダクだ。

今日は食事係りだ。休むひまもない。午後1時より教練。暑い、暑い。今日も大した暑さだ。

沖縄の戦場のことを思えば何でもないと思うのだが。

午後薪取りに（杉皮だ）。

暑い、暑い。山田を守る母、祖母、妻のことを思う。

山田で田植え準備。昼休みもせずに働いていることだろう。

7時30分より夜間演習。九州の小倉も毎日のように召集がある。連夜くらやみなれる訓練だ。

警報、3時間。敵機、毎日来る。

26日 晴天

9名引率、連兵場へ。基本体操等々。

午後 小銃譲与式後、直ちに舎後にて銃を持った各個教練を教える。1人で銃の名称、取扱方法。

点呼教練。かりん糖10ケある。

草履（上履き用）一足70銭買い入れ。

午後材料補給庫へ炊事用風呂用の薪を取りに約1里。物品販売所（酒保）で散髪をする。煙草（きざみ）自分で巻いてすう配給がある。1円12銭。

今朝の警報でねむい。早く休む。

27日 晴天 海軍記念日

7時まで起床延期。

午前8時より、日曜日であるのに、射撃。

西部四十七、四十五の要員で原隊復帰。帰って朝鮮に行くらしい。昨日午後凶囊（ズノウ）2ケ紛失した。中隊長おこって徹底的に調べると云って教練中止。班内にて謹慎だ。暑い教練より楽だ。

日曜日だが、父の面会が、もしや???と思う。

大変な面会人だ。休養。班内休養だ。

弟より手紙来る。寫真在沖。角帽姿だ。（帝大）、寫真の面会だ。久しぶりの昼寝。3時間ばかり寝る。弟、妻に便りを書く。

敵機来る。2機落ちるのを見る。

28日 晴れ

間接照準。目標見えざるものに対する射撃訓練だ。午後、水際戦車に対する直接照準等。2時、九州に於いて毎日空襲あり。

教育隊にて機関砲の教育？泥棒を見て縄をなうが如しだ。日本は1歩おくれてゐると思う。勝てるのか???と思う。日本全国、今さら堂々と教育隊と看板をかけて教育している所はないではなかろうか。然も全国の連隊（補充隊）。

小倉は故郷の母里より近く、早く来たものだ。

29日 晴天

昨日は同じ戦車に対する教練だ。学科。

ある近衛兵の軍隊手帳

家より小包来る。腹巻だ。夏シャツ2枚、煙草8ケ、きせる1本、大豆等々。有難いことだ。
黒田君あてに送って来たのを黒田君より受け取る。
煙草2ケ、きせる1本を黒田君に分けてやる。石村若尾兵長等と豆を喰う。

30日 晴天

身体検査。装置の特別分解。弾倉の分解など。午後、点呼。対空射撃。分隊長の動作。
入浴。母に面会の断りと贈り物の到着を知らせる。妻の子供の名前を書いて手紙で送る。

31日 晴天

今朝の霧で一閃先も見れないようだ。
午前、上島中尉（将校学生教官の指導で小隊長訓練だ。中尉は少尉より上だ）
教え方が上手だ。兵隊の心理をつかんでいる。
山西教官の兵器実施。特別分解。
今朝より四班は農耕だ。初めての日だ。2日は我々だ。昭和20年5月も終わり、いよいよ
農繁期、多忙の6月だ。麦の取り入れなど。家内一同大変な事と思う。
何時の日、原隊に帰れたら、早く帰り度い。遠い遠い宇都宮へ。

6月1日 晴天

警報発令解除。
午後、九四式六里対空測遠機を見る。
昼飯の給与は良好である。小豆飯だ。

2日 晴天

農耕だ。いも植え、豆植え、四町歩だ。
広い、広い練兵場が全部農園と化している。
昼食は食事当番をする。蚕豆（ナツマメ）の代用食、副食も。
5時、帰隊し、入浴。
沖縄はいよいよ重大な局面をと、新聞は報じている。

3日 晴天

観測、午後も観測だ。1日中、立ち通して大変だ。蒸しパン1個、菓子（下給品）

4日 晴天

勅諭拝読式、中隊長。
本隊教練、分隊教練

5日 晴れ

農耕。練兵場、午後1時より高空射撃に関する講義

6日 晴れ、午後雨

召集兵入隊。30部隊へも入隊者あり。共長上等兵、一等兵、1週間ばかり、教育を受け編成だ。
MA 1個大隊らしい。

7日 雨天

農園の排水溝掘りだ。 雨外套を着ているがびしょびしょ濡れだ。
敵機来る。長い警報だ。

8日 毎日のように雨降りだ

学科。煙草1円45銭。

9日 晴天

農耕だ。開墾作業。今日は監督がいないので、休憩、休憩だ。4時ごろ帰隊。
煙草巻き、67本巻く。

砲兵操典（旧日本陸軍が作成した、各兵種の教育および戦闘についての典拠書）買い入れ
45銭。

酒保にて散髪、25銭。警報、3時間位。

8日

毎日のように雨降りだ。

学科、煙草1円45銭。

9日 晴天

農耕だ。開墾作業。今日も監督がいないので休憩だ。4時ごろ帰隊。煙草巻き 67本巻く。

10日 晴天

教練、小隊教練。今日も暑くなる。

11時ごろ休養。若干寝る。酒保で飯盒のふたで半分くらい。黒田君と話す。5銭切手30枚、10銭切手5枚、はがき5枚受け取る。

新聞を読む。議会の開院式等出ている。戦況報告。沖縄は重大な局面等々。

11日 晴れ

今年始まって以来の暑さだ。蒸し暑い。

中隊、小隊 教練。貞子の手紙来る。須山 薫に召集令状が来た。

小包も来る。煙草（きざみ）、みのり3ヶ、キンシ5個、熊の胃（20匁）、豆、もち米、するめ、紛失することなく受け取る。感謝のほかなし。

祖母の心配であろう、熊の胃は20円も出して。祖母、貞子、誰も誰にも感謝だ、感謝だ。

12日 晴れ

農耕だ。雨来る。

母、弟、妻に手紙を書く。夏ミカン1ヶもらう。

13日 雨天

学科、対空監視について。

午後も同じ。昼食はすき焼き。肉、5つくらい入っている。

給料も大分良くなってきた。

14日 晴天

農耕だ。開墾作業。母より手紙来る。原忠四朗、須山薫に召集来た。

15日 晴天

射撃用意、解除等

午後も同じ。

16日 雨天 入梅のような雨降りとなる

（郷里では）麦の取り入れで困っていると思う。

身体検査あり。体重 63キロ 300g。

入浴、早く休む。

農業

- 1・生産なき戦いは持久力なし。
- 2・日本国家に対する御奉公。
- 3・真の理解は実行に現れる。

機材は兵器と思え

- 1・戦争一兵器。
- 2・作業は絶えずゆっくりと。

17日 晴天

最後の農耕、開墾。暑い暑い日だ。

午後1時より中隊長訓示。3時より、部隊本部前にて退校式。申告終わり。中隊長威以下幹部に申告。

出発準備せり。下給品の酒渡る。警報、空襲。10時事より4時まで長い警報だ。

18日 晴天

(小倉出発)

東北方面の学生は今朝早々に出発する。

私物其の他の整理、出発準備だ。黒田君と会って話す。

准尉の私物検査。出発。電車にて小倉駅。4時間余り自由行動あり。名和兵長とぶらぶら町を歩く。何も無い。いかの汁5杯のんで飯を喰う。

8時5分発、小倉門司着8時30分。9時40分乗り換えで残りの飯を喰って寝る。

19日地 晴天

(静岡、全滅)

6時糸崎駅にて昼食。兵站給養で御馳走だ。7時福山8時30分。岡山11時3分。姫路着、昼食。

12時赤石着。午後4時20分京都着。

夕食受領、大津石山、夕食を四日市、名古屋、岡崎、浜松。11時空襲、敵機来る。静岡は炎炎と燃える。大火災だ。列車の上空へも敵機が来る。島田という小さな駅で停車(立ち往生だ)。

地方の部隊に行き朝食を戴き昼食も食べる。2時間ばかりの休憩後、行軍にて列車不通のため用宗（もちむね）駅発焼津－用宗の間、全く絶壁の上の海岸道路、美しき所なり。

清水港の次郎長を想う静岡市。B 29 機の焼夷弾で大きな静岡の街も全滅だ。1時20分、B 29 機の火は災災と燃えている。静岡駅で停車中、煙が車内に入り込み全く市全部が焼けている。

罹災市民は雄々しくも立ち上ってゐる。

我々兵隊を見て泣きながら手を挙げ、万歳。万歳と云って健気な姿は全く誰も泣かされる。延々燃える中で、子供をだき、一人を連れて泣きながら、若き人妻は、農家を相当焼かれて哀れだ。静岡の姿、勝つため立ち上らねばと心より祈る。

静岡を後に東上せり。駅では貨車の米、コウリヤン等満載のまま焼けている。

4時30分清水駅発。清水では大政・小政の声がするようだ。この辺りは田植えは終わっている。最中のところもある。5時、沼津着。大きな町だ。米子位はあろう。5時30分、三島着。熱海の海岸、全く素晴らしい美しさだ。昔の歌を思い出す。（熱海の海岸散歩する）。みかんの産地で、お茶も。

8時30分、平塚駅着。東京（近衛から2回も対空訓練で来たところだ）。

給与、都合つかず。三沢少尉が心配され、東京航空隊管理本部に行き、セメントの上で夕食。

11時頃喰って寝る。飯は大豆麦が入っている。副食は羽草（ツクバネ草）味噌煮だ。

21日 晴天

3時起床、朝食、昼食共飯盒に入れて大急行で平塚駅へ。新聞、久しぶりに見る。

5時30分発。朝食、空腹でうまく（=おいしく）。7時、東京駅着、下車。

大混雑だ。省線電車にて上野駅。神田、上野、全く見る影もなく焼けている。7時30分上も駅発、東北線ホームに行き、乗替と王子、赤羽、大宮等々。

麦刈りの最中だ。9時30分、小山発宇都宮着、10時下車。ここで東北組と別れた。三沢少尉の下宿に行き、装具を置き、外出。石村兵長と2人、野菜汁（大根の葉っぱ）、なっとう5ヶ。何とも云えぬまづいものだ。1円也だ。オドロキだ。食堂ありがたいが、何もし。菜汁が1円とは。

散髪する。可愛い姉妹だ。50銭だ。これは満点であった。

又食堂をさがすとだんご汁があり、家の祖母の作る汁よりはまずい。だんご5つ入っている。50銭。これは安い。1杯限りだ。3時下宿前集合して3時半出発。なつかしの三十六部隊の中栄准尉に申告。四班に入る。一緒に居た者一人もおらぬ。皆編成で出ている。

22日 晴天

点呼も取らず8時頃まで寝る。

朝礼後、整理、その他。煙草の 配給百70本、4円95銭。

家では麦の取り入れ、田植えの準備。子供は生まれる等々、大変であろう。母上、たつ子、黒田明、小林宗朗に葉書き出す。

23日 晴れ

朝より警報だ。弟、堀尾、妻に便りを書く。空襲警報4回だ。初年兵は飛行場の作業とかで出ていく。久し振りに入浴。いい気持ちになる。

りんご1個、酒一合飲む。応召兵来る。上等兵3名。

24日 雨天

朝食後、果物、リンゴ寺田栄子さんから贈ってくる。

手紙を出す。今日も寝て暮らす。午後、特幹が入隊。

毎日のようだ。面会人も一杯だ。福田上等兵、吉沢上等兵、2名第二分隊に入る。福田上等兵面会あり。餅、卵焼き、テン普拉をよばれる(=頂く)。

饅頭1個下給品。砂糖入り小豆、あん饅頭だ。

25日 晴天 暑い日となる

大学、専門学校卒業の、24日入隊の9名に対して4時にて学科、服の名称、着方等々を教育する。

午後9名に対して各個教練、不動の姿勢、右向け廻り右教える。大学生の初年兵とは大変な事になった。

26日 晴天

9名引率、練兵場へ基本体操等々。

午後小銃の授与式後、直ちに舎後にて銃を持った各個教練を教える。一人で銃の名称、取り扱い方法。

27日 晴天

本格的な夏の暑さだ。

故郷は田植えの最中であろうか。昨年の田植えが思い出される。9時より9名の体力検査。

百メートル、土嚢運搬、懸垂等を終わって練兵場で匍匐訓練だ。赤城隊の面会人が練兵場で大変な人出だ。陸軍病院に行き検便。帰って練兵場で銃剣術の基本動作を9名の特幹に。市丸上等兵が初年兵面会の物資を持って来てくれた。

(特別幹部候補生=小学校の教員で6ヶ月の軍隊修業後、伍長になる制度)

29日 晴天

午前朝より昼寝だ

午後9名の特幹、医務室へ血液型の検査で、引率して行き、後練兵場で銃剣術の教育する。

30日 雨天

点呼後、准尉より転属を聞く。六九六大隊第一大隊へ。雨の降る中を営庭に集合。編成六九六大隊編入となる。倉庫に入って大隊長の命に依り、寫しの使役。夕方終わる。

No 1 沖縄、今や全く分断せられ、6月13日太田少尉の海軍部隊、全員切り込み。6月30日、牛島(陸軍)沖縄方面、最高指揮官は全戦力を上げて、

No 2 最後の攻撃、沖縄戦開始以来の犠牲者8万。周辺艦隊損害600。かくして本土の角、沖縄は終わった。本土決戦、我らは断じて勝たねばならぬ。勝利を信じ、一層の奮闘を誓うのみだ。

第一中隊見習士官2、軍曹4、兵長13、上等兵3、一等兵4、二等兵3。

俺は内務班長としを命じられる。副班長は内務班長を命じられる。副班長は藤村兵長

第一内務班長 山崎重一郎

第二班長 田村兵長

第三班長 小村兵長

第四班長 相崎兵長

第五班長 磯崎兵長

被服係 山崎重一郎

7月1日 晴れ

初年兵入隊するための準備

部隊の先発 早朝出発セリ。水戸市

初年兵7名入り来た。中卒2名、商業科卒4名。

夕方又6名入って、初年兵13名。大騒ぎだ。

2日 雨天

(社長も入隊してくる)

中隊の被服返領だ。俺の助手は賢木二等兵だ。

被服を分配、大変だ。

略帽、軍衣袴、襦袢、巻脚絆等、班長に支給する。初年兵又6名入ってくる。

今度は38歳3名、34歳2名、31歳1名だ。

老兵さんあ。大変だと思う。会社の社長、重役等大物の入隊。日本も男が居なくなり、老兵も召集だ。

3日 雨天

今日も被服係りでてんてこ舞だ。

午後2時、服装検査。六九六大隊六九七大隊の2ヶ大隊。

服装検査申告。

寺田栄栄子さんより子供が産んだと手紙来る。

4日 晴天

(勇治と命名、妻の便り)

被服変わらず大変だ。被服係りなので練兵場にて乗車(列車)退避訓練。

午後残った被服、戦闘用倉庫に預ける。

貞子より便り来る。子供が8時頃産まれたと。

安心せり。勇治と命名したとの事。

大雨となる。夕立のようだ。演芸会。

大隊長出発。訓示等。 てんてこ舞いだ。

5日 晴天

(千葉、鹿島に向けて出発)

4時30分起床、出発準備。

独立第六九六六大隊、六九七大隊は8時第三十六部隊。

営庭に集合、部隊長上申告、出発。

軍用列車にて10時発 小山栗郡、久喜、大宮、浦和、川口、赤羽、王子、日暮里、秋葉原、
亀戸、市川、船橋、千葉、佐倉、成田、我孫子、取手、佐貫、土浦、各駅通過、石関着3時。
乗換(8時30分)玉造り行き着。出発行軍だ。8里の行軍(夜行軍)初年兵は入隊早々で

ある近衛兵の軍隊手帳

あるためばたばた倒れる。暗くて全く路は悪いぬかるみだ。

霞ヶ浦海岸道路である。

3時 目的地の太田国民学校に入り

握り飯喰う。休む時4時半。

東方は明るくなっている。有名な土浦海軍航空隊のある土浦は海軍の兵隊で一杯である。

6日 晴天

今朝の行軍で足は痛い。100米先は霞ヶ浦だ。500米北方は水上機発着場。

全くの田舎だ。風光明媚だ。途中、桐の木、栗林等広々したものだ。田植えは大抵終わっている。

大田国民学校は六九四大隊本部と一中隊だ。

二三四銃砲隊は付近3キロ先に分屯だ。

9時前、霞ヶ浦水辺に行き、眺める。空襲警報連発で大変だ。草履を(竹の皮)80銭。休養する。

7日 寒い寒い日だ

初年兵の各個教練。小さいお寺の庭で

学校校庭は広いが甘薯が植えてあるので教練ができない。

午後、班長集合で中隊長訓示。初年兵は訓練だ。

8日 晴天

午前4-5日前よりのどを痛め診断を受ける。

アスピリン1個。公用証で山田に行き、治療。帰って

冷やして休む。切開手術だ。初年兵は4種混合注射。

東部軍参謀の少佐乗馬。小型機80機、松林に避難する。

9日 晴れ

俺も出ていたが(初年兵の練習)

中隊長殿、休めと云われるので休んで被服員数表を作る。

午後、妻に手紙を書く。部落の風呂に行く。

1ヶ分隊、木の桶だ。それでもいい気持ちになる。

2週間ぶりだ。毎日敵機来る。夜とも昼ともなく大編隊だ。

10日 晴天

(敵機、頭上乱舞)

点呼中、警報だ。避難だ。

山の中、頭上へ50機、100機。乱舞している。

一寸の隙で朝食。抜き打ちに又来る。

退避、山の中。1次40分頃まで波状攻撃。

帰る時なし位だ。帰って昼食準備。又退避。

爆弾、高射砲、機関砲の音、全く戦場だ。

水戸、土浦・・・急降下、爆撃だ。昼食は山の中。4時頃昼食も喰う。山の中、森林の中。

砲弾での昼食。戦場を想う。我々の頭上で急降下。機関銃だ。次から次へと。犠牲者あり。

夕方初めて解除。山の中から降りて夕食。

点呼。早く休む。

11日 晴天

4時起床。山口村に行く。今日も襲撃だ。

今日はB29らしい。初年兵は弁当所で退避。

訓練に出ていく。午後、豪掘り。弾の中で退避のためタコ穴式だ。帰って入浴。

(身の丈ほどの穴を掘り、そこにしゃがんで退避することをタコ穴という)。

12日 晴天で雨

雨のため、学科、豪掘り、山の中。

13日 夕方より大雨だ

田圃も大雨のため湖のようになる。雨の中、医者に行く。帰りは民家へまわり、馬鈴薯で
ご馳走になる。ドブ酒3合余り10円払う。午後、演習。民家にまわりお茶、胡瓜をよばれる。

又食後軍歌演習、入浴。

14日 晴れ

演習。お寺にて手竜弾、投擲匍匐。お寺にて教官と2人、お茶、馬鈴薯をよばれる。青年
学校より銃を借りて各個教練。

銃剣術の基本等々。

今日は入隊(召集兵)、家を出た日だ。村民に万歳、万歳っと送られ、濱田に泊まった日だ。

須山年雄、須山大二郎の3人一緒に。

15日 1年前、濱田へ入隊の日だ。

午前行軍だ。第一分隊長だ。3里歩いて宿舎に入る。(民家)。

暈の上も久しぶりだ。上りこみ、一分隊17名。大したもてなしを受ける。初年兵、久しぶりに腹いっぱいになったと思う。

休憩後、1里半の道を軍歌を歌って帰隊。

16日 晴天

外泊だ。午前、外泊証明書を戴く。

8泊9日だ。教練、お寺にて各個教練。銃剣術。

午後、外泊の件で内務係りの軍曹と話し合う。

17日 大雨

夕方の警報のため、休む。

午後 12班及び本部の初年兵、軽機関銃の名称、分解、結合等夕方暗くなるまで教育をする。

外泊はとんでしまう。入浴は休む。

18日 晴天

朝より警報だ。午前、3, 4, 5班の初年兵に軽機の名称、分解、結合、各個動作等に俺一人で60名余りの初年兵を教育する。

午後、空襲警報。艦載機来る。1時頃より6時頃まで休みなく頭上に敵機あり。

直ちに山中に退避せり。軽機の教育をする。

6時、解除。帰隊して諸田上等兵、中島2等兵と3人で散髪屋に行く。50銭。夕食は7時40分、諸田上等兵がうなぎ10円で買って来た。

19日 晴天

毎日、梅雨のような天気だったが、今日は久しぶりに晴れ渡る。軽機関銃の教育を舎前にて大隊長、中隊長の着任のため整頓。

第一班にて中隊長の訓示。

20日 晴天

午前6時30分、集合して教練。

手りゅう弾投擲して行い、突撃、軍歌を歌って帰る。午後も同じ。

中隊長に呼ばれて外泊許可せられたり。

いい中隊長である。舎前にて大隊長の訓示あり。

中隊長以下の会食。会食は兵長以上15名。

明日の外泊のため眠れず。

21日 雨天

22日よりのところ、今日より出発せよとの事。準備、米3升余りを持って。

中隊長始め幹部に申告して雨の中を6時30分、茨城県行方郡太田国民学校出発。香澄村牛掘まで2里半行軍で。

8時20分、1時間待ってバスで佐原駅にて佐原より米子までの切符25円、買い入れ、11時06分発千葉着13時、千葉駅にて省線に乗り換え、秋葉原にて乗り換え。東京駅より3時25分出発東海道本線、横浜、平塚、熱海、三島、静岡、8時30分着。名古屋着4時、岐阜、前原、京都8時20分着。1時間半もあるので駅前まで米を出して炊くいてもらい喰う。

10時30分京都発、山陰線、餘部、和田山、鳥取着4時50分。懐かしの山陰線だ。

米子着7時55分。直ちに町に出て米子の町だ。懐かしい街の様子は変わっている。電車站に行ってみたが電車がいない。困った。腹はへって。行軍で帰ることに決めて陰田山中勇中尉宅へ行き飯をたきご馳走をよばれる。配給の酒5合ばかり2人でのむ。帰ることをあきらめ勇さんと話に花をさかせる。

23日 雨天

4時半陰田で起床。朝食後、電車に、2番に乗り、6時40分発で阿駕駅を下車。猪小路（妻の実家）へ行く。

祖母、父上、母上、千鶴代さん、子供は可愛い最中だ。啓一郎君であれば大喜び、喜ぶことであろう。

酒、御馳走になる。父上と話す。10時出発。行軍にて帰る。11時半、井戸（実家の地名）に帰る。影平にて一杯よばれて帰宅する。

祖母をはじめ、皆元気な顔を見て安心せり。

武道がとんで来てよろこぶ。誰もよろこんでくれた。

藤枝、たつ子（妹）たちも元気、よろこんでくれた。

ある近衛兵の軍隊手帳

生後1ヶ月の勇治も元気、いい男の子だ。

父上は20日より直江の飛行場工事に行き、留守であったが、すぐ帰るよう、母上が心配して葉書きを出す。大変だ。松次郎に会えぬが残念のだ。

午後、祖母は町に出る。母は増産、増産で田打ちだ。貞子は俺のため洗濯。

24日 晴天

武道と暮す。殿川内へ武道を自転車で連れて行く。秋葉さんのお祭りだ。武道、大よろこび。初めて行ったのでみやげをもらう。

町の繁雄、とみ子さんと話す。約2時間。

武道を学校に連れて行く。夕方帰る。

夕方より雪乃屋（小料理屋）にて寺田、影平、久保田3人で歓迎会をしてもらう。俺はエビをもって行き、久しぶりに話す。11時半帰宅せり。感謝のほかなし。

25日 晴天

いよいよ本格的な暑さだ。

武道と遊ぶ。長道中と夜の蚕に全くくたびれた。

農舎で糶ずり、7俵。夕方、父上直江より帰る。

2人で話す、酒をのんで。

26日 晴天

午前、山田の草取り。俺は武道と遊ぶ。

餅つき。俺の祝いで部落にくばる。

佐久保の春さん来て田打ちをしてもらう。

午後、雪乃屋の嫁も来て草取る。

父上と話す。父より100円もらう。

稲田利一君来て話す。早く休む。

27日 晴天

午前、父、祖父は精米に運崎へ。

稲田利一君来る。午前中話す。

母、貞子は松根掘りに山へ（松の根を乾燥して燃料にする。）

名和へ佛おがみに行き、もち米1升持参する。

部落の人、又ぼた餅（家で）祝い。

28日 晴天、

朝より空襲だ。米子、安来、浜の方だ。

急降下、爆撃、機関銃で大騒ぎだ。

いよいよ山陰も本格的な空襲となる。

毎日のように来る。明日はいよいよ出発だ。準備。

母、祖母、餅つき準備。皆一生懸命俺のための準備、

勇治、陰部腫れたので医者に連れて行くも、大した事もなく安心する。

墓参り、母、たつ子、武道、俺4人。帰ってたつ子、武道3人、客神社参拝する。母、貞子は井戸田の田打ち。早く帰ってくる。入浴、一杯呑む。

29日 晴天

4時起床し、箱に餅を詰め、500位。

酒1升つめて荷造し、父と飲む。しばらくの別れだ。

5時出発。妻、武道、藤枝、たつ子、町まで見送ってくれる。

町で連絡の上田自動車を借りて出発。見送られて。

安来駅まで父は見送ってくれた。

9時10分発上り列車にて京都着9時30分着。

東海道線。再三警報で列車が停車。

浜松が艦砲射撃のため御油駅まで行き、折り返し名古屋へ。

30日

名古屋発10時15分、中央本線へ乗り換え。午後3時45分塩尻着、乗り換え4時05分発、12時15分新宿着。駅前にて1泊。

31日 晴れ

山手線5時30分、秋葉原着、乗り換え6時35分千葉着。列車の連絡悪く、3時間も待って、9時10分千葉発佐原駅着11時30分、12時発バスにて牛堀り。午前より電話にて連絡せしも、部隊は移動。鹿島まで自動車。腹は空く、餅は出して焼いて喰う。

山口軍曹に迎えられ、一緒に鹿島より約5里行軍 出発3時30分。途中夕食を喰い、11時30分目的地の軽野村（現在の神栖市（かみすし））奥野浜へつく。

中隊の在りだ。各分隊、民家に分宿。

鹿島灘、第1戦だ。俺は第二小隊第一分隊長だ。

宿舎は弘法大師堂第一、第三・四分隊。

12時半。宿舎に入る。

餅、豆を出して全員に喰わせり。初年兵、特に多く食べる。

8月1日 晴天

中隊長及び幹部に外泊帰隊の申告。午前休む。民家に行き、お茶、西瓜、魚など。

午後、軽機初年兵教育、射撃姿勢等々だ。

水島、山田見習い士官、和田、小笠原伍長で持ってきた酒をのむ。餅は中隊長へ。

久し振りの酒で皆喜んだ。入浴、民家の風呂で。西瓜を喰う。初物だ。

2日 晴天

午前、昨日と同じ、初年兵教育だ。

初年兵は裸足。教育助手は軍靴、巻脚絆。

午後、午前と同じ。夕方、民家に餅を持って行き、煮て喰う。諸田上等兵のおごりで濁酒（ドロク）2升。

山田見習い士官、俺、小原伍長、稲田4名で。

ほまれ（煙草）配給あり。第一分隊、440本。西瓜を喰う。

3日 晴天

たばこ配給100本。仲山、景山上等兵50本。兵隊は35本づつ。変わらず演習だ。軽機、基本教練。明日は検閲。午後同じく演習だ。西瓜、毎日のように喰う。

4日 晴れ

検閲取りやめ。師団長巡視。

変わらず初年兵の演習だ。空襲で退避だ。

毎日だ。毎日、もらい風呂。豊かなところ。

お茶は日に何回となくよばれる。

女はモンペをはかないところだ。赤い色の腰巻を出して色気たっぷりの姿だ。

総じて浜は早熟との事だ。男18歳、女は15-6歳で結婚をするとのことだ。

今週週番、下士官をせられ、正午交代、服務せり。中隊長幹部に申告す。

明日は、師団長巡視で宿舎、食事の準備。大多忙だ。11時30分、事務所で休む。

5日 晴天

浜辺で点呼を取る。宿舎、御馳走で大多忙だ。22時30分、事務室で休む。

週番士官、高橋軍曹だ。立会して点呼を取る。

宿舎、御馳走の使役で大変だ。10時30分。師団長、陸軍中将永沢三郎閣下。

国民学校で申告式。訓示。海岸視察。3時半終わる。片付けで大変だ。汗だくで働く。警報あり、5時間も。はまぐりを焼いて喰う。

6日 晴天

点呼後、網引き。魚取りをはじめめる。

兵隊全員手伝う。あじ3寸くらい、カニ、エビ等だ。初年兵の演習、若干して、又縄引き。

はまぐり、3ヶ取る。3面引くので魚は大きい。小鯖3寸位、アジ、カニ、ヒラメ等。朝食、夕食とも魚。ピンピン躍る。サシミで喰う。サシミは久し振りだ。

7日 晴天

大隊長の初年兵受験者 62 名。

第二小隊長	兵科見習い士官	山田栄吉
第二小隊長	兵科伍長	小原沢素市
第一分隊長	兵長	山崎重一郎
兵	海老原 正	中田英一郎
	齊藤定雄	齊藤萌雄
	仲田 武	吉持 忠
	景山 成	高橋正明
	齊藤英男	野村武平
	小原勝造	昭和 20 年 7 月 25 日現在

猛烈な暑さだ。俺は週番、下士で事務室だ。

毎日、毎日の魚であきた。カニは仲々うまい。

浜辺はいいところだ。西瓜、あじ、瓜、いも、魚、とうもろこし、豊かなものだ。

査閲、午前中で終わる。

兵隊の外泊者、ぞくぞく帰隊する。

ある近衛兵の軍隊手帳

下士官は明日だ。西瓜は毎日だが、今日のは特にうまい。

8月8日 大昭奉戴日 晴れ

4時起床。非常呼集で海岸警備につく。俺は第一分隊長で指揮を取る。

午前、食需伝票その他整理。初年兵演習だ。

7時より初年兵、初めての夜間演習。

8月9日 晴天

全員、4時30分起床。

5時10分 大隊本部に行く。大隊長訓示後、

一部の者は材料運搬

診断患者3名。医務室へ引率していく。

兵は14時まで睡眠認可せられる。

田島上等兵に逢う。隠岐出身だ。同県人の懐かしさで話す。

不審番割、本日よりだ。

外泊者3名。

10日 晴天

朝より空襲だ。空襲、空襲だ。

休みなく来る。大隊長、中隊長、海岸の視察及び防衛等々。西瓜を喰う。

11日 土曜日 晴天

11名の診断患者引率、医務室へ。本日より築城の幹部の報告あり。

各中隊より分隊長以上が来る。

正午、週番、下番交替、田村兵長、後休む。

12日 晴天

午前4時起床、点呼。空襲。

霧の中、敵機、霧のため見えぬが、千、2千と茨城の幹部の報告あり。各中隊より分隊長以上来る。

午前、幹部教育。7時より豪掘りだ。

同じく1時より、初年兵、外泊より帰ってくる。

赤飯、缶詰め 西瓜、腹一杯だ。

13日 晴天

午前4時30分起床、点呼。空襲、霧の中だ。敵機線、2千と茨城県の上空。農園大隊本部。銃撃で2名、負傷者12名位出る。

14日 晴れ

正午、天皇陛下の放送。上着をつけ、ラジオの前に集合。天皇みづからの放送だ。聞いたるに終戦とのことで啞然となる。然し、大御心の御心痛いかばかりか。ああ2千年の歴史もとうとう終わりか。あああ・・・
原子爆弾と云うものと、ソ連の参戦により
四ヶ国宣言を受諾せられたのである。

15日 晴天

豪掘り、その他
正午 聖上異例の御放送。一億断腸。熱涙しぼる。四ヶ国宣言を受諾。
新爆弾。惨害測るべからず。
阿南陸相、14日自刃す。

16日 晴天

聖断下っても陣地構築。
俺は休んで舎内監視。第二小隊長若干機嫌悪し。第一、第二、第三、第四分隊長、誰も出ない。
兵隊ばかり。西瓜とあじ、瓜を喰う。

17日

4時半起床、中隊事務室にて点呼。
中隊長の命令下達。
一切の戦闘行動停止と上司より命令来ると話す。陣地構築、昨日に続いて。
何のための陣地構築なりや、解釈にくるしむだ。
午後、同じく作業。 4時30分入浴。

18日 晴れ

午前、陣地構築。午後、分隊長以上大隊本部前集合、大隊長訓示。

大したことなし。陣地構築。

中隊長の娯楽会だ。村民合同の娯楽会だ。

賑やかに9時半終わる。

19日 晴天

変わらず早朝4時30分点呼。7時30分、陣地構築。1日中何のためかわからず。

20日 晴天

海がなぎ、魚取りで浜辺は大騒ぎだ。

地引網、面白いものだ。鯖、鰻、さしみ等々。

午後も2回引く。村中、魚の反乱だ。

第一分隊長 山崎重一郎、第二、三、四分隊長

連絡下士、小沢原伍長、炊事の仲山上等兵

7名で酒の配給あり。2升、濁酒6升、招待事務室でのむ。

さしみ、つけ焼き鯖、さわず、鰻、久し振りに大酒をのむ。盆の13日だ。部落人、女、子供皆来ておどる。盆踊り、大騒ぎ。大佛堂は一杯だ。

11時、とうとう中隊長来る。油をとられ（叱られた事を、油を取られるという）、宿舎に行き、1時間も蚊にさされて立つ。ねむいやら、腹は立つ。

お茶を民家でよばれる。脱営者あり、不時点呼、2時頃だ。

21日 晴天

午前作業。午後も作業。熱いほどである。

山田、水島見習士官、少尉に任官。俸給8,9月38円。

使役、ビショ濡れになって帰る。風雨のため宿舎の半分も家の中へ雨が入り眠れず。

22日 晴天

使役……。残務整理。いよいよ近し?……

雨となる。風も強い。ものすごい風だ。

23日 晴天

5時起床。使役。木材運搬。

その他1里半の行軍。大馬力をかけて午前終わる。

散髪する1円。下給品。酒小隊に2升、分隊長、上等兵集合して宴会だ。小隊長の進級祝い。

山田少尉、小沢原伍長、俺、磯崎兵長。福田上等兵、武藤上等兵、仲山上等兵。

酒2升、ぶどう酒2升。1升65円。いい気持ちになる。12時寝る。

24日 晴れ

帰郷の準備だ。一切の私物、裏の民家にやる。寝たり、起きたり退屈だ。

25日 晴れ

山本利三郎宅に行き、お茶（玉露）を呼ばれる。3時間も話す。午後、何もなし。

敵機、百台、低空を悠々と偵察のため、家すれすれだ。負けたのだ。実感わく。

酒2升、小隊へ。一、三、四分隊、会食する。

佐野屋にてうどん、お茶をよばれ、12時帰隊。

26日 日曜日、晴天

今日はいよいよ聯合國軍、マッカーサー、厚木飛行場に降下。東京付近に進駐する日だ。

炊事に行き、将棋をし、お茶で話す。

奥野谷浜大師堂、第一、第三、第四分隊の宿舎、懐かしき宿舎。もはや来ることもないと思う。

永久の別れであるのだ。小豆だんごをよばれる。

27日

今日も朝からノースアメリカン・グラマンが頭の上をとんでいる。全く癪だ。

朝よりゴロゴロ寝ている。退屈だ。

演芸会、大師堂にて浦上等兵の演芸節、何と云っても大したものだ。芸人だ。

28日 晴天

5時起床。分隊長集合で昨夜の福田上等兵の一件 協議せり。

網引き、一日中、5回も。鰯、鯖、ひらめ、ボラ等。昼も夜もサシミ。魚づくめだ。

夜は老人連が大師堂に集まってお祭りだ。御馳走になる。小豆を餡で煮たものであった。

入浴は毎日、4 - 5時間だ。

29日 晴天

晴天、小川でカニを腹一杯よばれる。

朝より暑い。南風だ。網引きもせり。海水浴2時間。

30日 晴天

5時点呼。軍装検査の準備。

6時30分、中隊事務室にて型ばかりの検査。天幕、水筒もらう。

館の缶詰1ヶ。分隊以上はカニの缶詰2ヶ、鰯の缶詰、アンパン8袋。3日分の食品受け取る。海水浴約2時間。乾パン2袋、牛缶1ヶ。追加配給あり。小豆2袋、砂糖3貫匁、ぜんざい。酒の下給品3升5合。小隊長連絡下士官磯崎、福田、斉藤、分隊長以上集合。会食。酒1升、福田上等兵より、濁酒汁3升。

全くいい気持ちになる。他国の歌を聞き、俺も安来節を歌う。稲本さん宅に行き、お茶、西瓜、を呼ばれる。今夜の西瓜が今年の最後とのこと。高いものを俺のため、磯崎兵長、2人のため。感謝にたえず。

31日 雨天

腹へらしに網引き、浜へ行く。鰯、鯖、カニ等々。さしみを喰う。

午後雨天につき寝たり起きたり。退屈だ。

入浴。毎日ぶらぶらだ。

今日、復員、缶詰だ。本部連絡室の整理次第、故山に帰るのだ。

敗戦の将、故山に帰るのだ。

感無量だ。

9月1日 今日二百十日、風なし。

雨がポツリポツリ降っていた。この調子なら豊年であろう。

午前、ラシャのズボン（冬服）1着もらう。

兵長以上に石鹼1ヶ、半紙、靴下2足、蟹の缶詰1ヶ、日曜品とふんどし。

初年兵にやる。毛布2枚。

昼食は麦飯に小豆入りだ。煙草の葉をもらって作り、分隊にて巻かせる。

粉味噌1缶およびカニ缶1ヶ。

山 崎 勇 治

俸給として10月分及び賞与として計2百67円80銭。俸給1年分と拾月まで。

大隊本部前の舎営衛兵上番だ。軍隊生活最後の衛兵だろう。

司令 山崎重一郎

営舎係り 木村兵長

歩哨係り伊藤上等兵

歩哨 佐山大里、斉木、青木、仲柳

17時、事務室前集合。中隊長、内務係准尉に申告。18時大隊本部前に行き、交替服務する。

2日 晴天

朝より飛行機とび廻る敵機。癩にさわる。久方振りの衛兵で大変である。

日直司令、田島の奴、3回も来る。巡査も来る。高田少尉だ。18時、二中隊より交替が来たる。

交替し、中隊帳申告。

第二中隊の事務室、約千500米先の学校だ。

報告用紙を出し、7時7時30分帰隊、夕食。

3日 晴天

5時20分起床。第1回の召集解除あり。官吏消防員、鉄道員(電車)等第一分隊より、影山兵長、斉藤二等兵解除になり第一小隊見送る。夕方、野口宅にてうどん粉だんごよばれる。

4日 晴天

8時集合。海岸にて体操。角力等だ。網引き。

5日 晴天

午前、網引き。さしみ等御馳走になる。

復員のため軍装検査、大隊長だ。

海岸にて小川宅にて酒2合よばれる。

炊事に行き、仲山、加藤の3人で2升のむ。

野口邸に行き、お茶、ぜんざいをよばれ、12時寝る。

6日 晴天

6時30分、角力、海岸にて。8日出発の予定だ。輸送関係で11日となる。全く仲々でくさる。誰も小言だ。早く休む。

二中隊では又1名病死する。復員を前に可愛そうな事だ。

7日 晴天

6時30分より網引き。さしみを喰う。

午後、体操、かけ足。炊事に行き酒をのむ。

村藤班長、加藤、仲山上等兵、3升ものむ。

野口宅に行き、3升ものむ。歌を歌いおおさわぎ、12時頃まで。

8日 晴天

網引き、魚かからず。

点呼後、除隊の命令来る。東京方面は明朝3時、中隊事務所前で出発との事。

直ちに軍装をし、野口さんに飯をたいてもらい、全く感謝のほかなし。親身もおよばぬ程だ。

9日 晴天

午前2時50分、大隊長本部事務所前、軍装をして整列。小隊長、戦友と別れた。

3時事務所前集合、合計150名。

俺が先任で中隊長に敬礼。頭（かしら）、右へ。

訓示を聞き戦友に見送られ、3時30分出発。

山崎重一郎、引率だ。150名も十字路にて

大隊集結。大隊長訓示あり。出発。

4時、日川着。5時30分乗船。6時出航。30分で利根川を渡り、笹川町に上陸せり。利根川は大きな河だ。発動機船が何そうと動いている。

笹川駅前集結。笹川発にて千葉、秋葉原、省線にのり、神田、東京駅。東京駅発19時10分、東海道線にて発車。准急行にて大阪行き。東京より京都まで立ち通した。

10日 晴天

京都着8時30分。山陰線にて10時3分発今市行に乗る。一路故山へ。

懐かしい子供の待つ故国井戸へ。

安来駅8時10分。30分延着だ。

懐かしの安来駅だ。電話をかけ、父に迎えを頼む。

渡辺さんと云う人（女）、井尻との事。2人一緒に歩いて帰る。

宇賀荘の土手で父に会い、荷物を自転車に積んでもらい帰る。大塚あたりより大雨となり、

びしょぬれとなる。父と話して帰る。10時20分、帰宅。

誰も元気であり、安心する。

軽野村奥野谷浜の大師堂出発、故山の東京駅より京都まで18時間40分。途中、列車事故のため3時間おくれ。京都より安来まで10時間と12分かかった訳だ。

召集以来1年余り。転々として終わった。

敗けて良かったと思う。終わり。

結 び

3歳年上の兄である山崎武道から以下の手記が届いた。彼は長男として彼の奥さんと共に父親が死去するまでの70年間を同居し、世話をしてくれた。兄は、その間事あるごとに父親から軍隊時代のエピソードを聞いていた。それは軍隊手帳の隙間を埋める重大な役割を果たしている。いわばオーラル・ヒストリーと言えるであろう。

(房総半島守備勤務)

父は晩年には、中支（中国中部）戦争体験よりも近衛兵時代後期を語るようになった。

沖縄がアメリカ軍の手に落ちるや、ようやくアメリカ軍のB-29機が東京の空をうかがうようになり、宮城守備は日常的となった。2月末から4月にかけて、日に何度も警戒警報令が出る。そのたびに日夜を問わず衛兵は火消し作業が忙しくなった。11月1日から5月末までに75回の空襲を経験している。

作家の早乙女勝元氏も以下のように述べている。

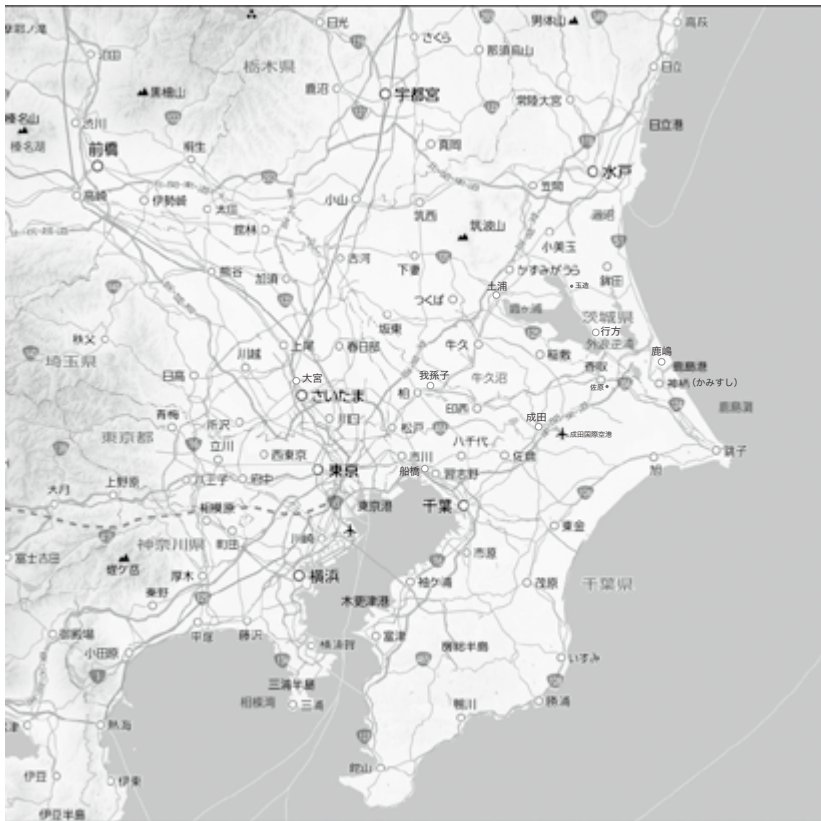
「東京は1944年（昭和19年）11月14日以降に106回もの空襲を受けたが、特に1945年（昭和20年）3月10日、4月13日、4月15日、5月24日未明、5月25日－26日の5回は大規模だった。その中でも「東京大空襲」と言った場合、死者数が10万人以上と著しく多い1945年3月10日の空襲（下町空襲）を指すことが多い。この3月10日の空襲だけでも罹災者は100万人を超えた」。

父は昭和20年1月、宮城守備勤務を解かれ、そのまま栃木県的那須御料地勤務となった。その後、5月、対空機関砲修業のために北九州・小倉師団に出張を命じられた。40日間の小倉師団勤務を勤務終えて、6月18日に帰隊する。空爆で破壊された下関、広島、岡山、姫路、神戸、大阪の街を眺めながら静岡駅に到着する。静岡の街はアメリカ空軍の猛攻撃の最中であつた。「兵隊さん万歳、兵隊さん万歳！」叫び、手を振る主婦の姿を見て、もらい泣きをし

ある近衛兵の軍隊手帳



焼け野が原となった東京



房総半島

てしまっている。

上野駅から東京の町が見渡す限り見えるほどの焼け野が原を、暗々たる気持ちで眺めている。日本の敗戦を予感する出張であった。

対空機関砲の技術を学んだ彼は、房総半島へ勤務を命じられる。ここではアメリカの爆撃機を迎え撃つことが彼の任務であったからだ。

ただ、房総半島の暮らしは、宮城での守衛時と違っていた。宮城守備の時は、重苦しい官僚的な、かつ権威的規律の支配する世界威であった。一転して、鹿島灘を中心とする房総半島守備には解放感があったという。

実弾の飛び交う上海から武漢に至る中支の戦場を4年間、駆け廻った父にとって官中は住みやすいものでなかった。

「支那の戦場の勇士」と、自分のことを自負していた父にとって、実践経験もない近衛兵官僚から、さしたる理由もなく、たびたび頬ビンタを張られることは、まことに自尊心が傷着いた。

目の前は鹿嶋の長くのびた鹿島灘。その向こうには太平洋が広がっている。「官中に比べて別天地の感深し」であったと語った。

さて、実際の守備活動の方は、実はなにもすることがなかった。B-29機は毎日、空高く東京に飛んで行く。他方もなく、銃などではどうする術もない。海の方には敵艇一つも見えず、交代で歩哨に立つのが唯一の仕事となった。

自然と地元の村人と仲良く付き合うようになった。村人は何かと「兵隊さん、兵隊さん」と呼びかけてくれる。村には時局柄、若い男の姿はなく、老人と女性、子供だけが残っている。毎日のように、浜辺では地引網が行われた。大声を挙げて村人総出で網を引く。兵士である父たちも手伝って網を引いた、戦争の影は1つも感じられない、昔からの浜辺の生活がそのまま繰り広げられている感があった。とのこと。

特に女性たちは、老いも若きも半裸になって網を引く。彼の手帳には以下のように記されている。

「8月4日 晴れ

女はモンペをはかないところだ。赤い色の腰巻を出して色気たっぷりの姿だ。

総じて浜は早熟との事だ。男18歳、女は15-6歳で結婚をするとのことだ。」

太陽の光のどかな漁の風景が眼前にあった。夕方、村の女たちは魚、野菜などを兵舎に届けしてくれる。中支での四年間の長きにわたる軍隊生活に比べれば夢のような毎日だ。

(父の自宅帰還について)

(1) 房総半島から東京駅へ

玉音放送は隊員一同、兵舎の前に整列して聞く。

以下、玉音放送についての父の弁

- ・日本国敗戦の事実を皆静かに聞いた。

近衛兵隊という立場から全員、日本国の敗戦のことを大なり、小なり予想していた。

- ・特に、自分は2ヶ月前、小倉出張時に、小倉から東京までの列車の車窓から焼け野が原になった国土の姿をこの目で見てきた。特別焼夷弾(原子爆弾)投下のうわさも流れていた。だから負けると覚悟もしていた。

(2) 房総半島から東京駅への移動と引率

玉音放送後、全軍、東京駅を目指して移動することになった。そして父が全員の移動の責任者となり、指揮を取るようになった。この時、中支での経験が役に立ったという。

房総半島の鹿嶋の兵舎から、直線で結んでほぼその線に沿って北上するという方法である。これは、支那大陸を行軍する方法でもあった。

できるだけそれに該当する道路を使って進む。橋がなくても、全員直線的に河を徒歩で渡って進む。

関東平野が中国の中支の地形に似ていたこともこの行軍方式に適合した。

東京駅前に全員結集し、同じ出身県別に帰郷することとした。当時、兵隊は上官の帰省許可証があれば駅長は該当駅まで切符を支給することになっていた。

三々五々、全員東京駅から帰省していった。最後の父は東海道線、山陰線を乗り、ついで安来駅に着いた。昭和20年9月10日である。

確か、私が6歳のころになって小銃が倉から出され、母里村役場に提出された記憶がある。

又、軍刀も残されていた。小銃提出の時、父は軍刀を残すためにヤスリで刀身を半分に切断し、先端部分は近所の父の友人の弟さんが貰い受け、短刀を作り直した。又、左記の部分を持った軍刀は長い間、我が家の縁の下においてあった。

(3) 銃後の守り

- ・ 影膳

父の出征中、我が家では「影膳」がなされてたと言う。

夕食は必ず食卓(長方形机)には、父の影膳が用意されたそう。他の家族と同じ御馳走が並べられた。

- ・ 1年365日の宮参り

父の祖母は気の強いことで有名であった。その私たちにとって曾祖母の『武運祈願宮

参り廻りについて次のように聞いた。

曾祖母は父の出征中、毎日欠かさず近隣の神社を参拝し続けた。

我が家の前の『客神社』から始まり、1.5キロ離れた西八幡様、さらにそれから500メートル先の「東八幡宮」、さらに1キロ離れた不動妙様を順番に参拝した。全体で6キロはある。

その曾祖母は私が7歳の時亡くなる。

その間、百姓をしていた父と規の強い曾祖母が大声で争っている姿を目撃している。

『私はお前が戦争に行っている間、雨の日も、風の日も八幡さん、不動さんとお参りしてやったのに』と言ったことを思い出す。

(私の出生の秘密と国際交流)

私事で恐縮だが、私は1945年6月18日生まれである。私の出生の秘密が彼の軍隊手帳に記されていることをつくづく実感し、恐怖さえ覚えた。私の出生には3度の奇跡があった。

第1に、父親が中国大陸の4年間の銃撃戦でもし敵弾に当たり戦死していたらこの世に生を受けていない。(とくに赤犬肉事件：略年表10月25日～11月9日参照)

また大陸から無事帰還できたがまだ難関が待ち伏せていた。それは、大東亜戦争へと拡大する中で、父親が再徴用されたのである。彼は宮城に入る前に、9月24日に外泊が許可された。もし外泊が許可されていなかったならば、母親との面会はできなかったであろう。

第3に、たとえ外泊が許されたとしても、母親の体調が良くなければ、私はこの地球上に存在していなかったはずである。その意味で、私は幸運の星の元で生まれたと言えよう。

留学生のお世話をして40年。私は昨年7月にNPO法人国際交流・フォーラムこくら南を立ち上げた。その原動力は、私の出生の秘密にある。世界中の若者が、平和な環境の下で安心して住める社会環境を構築することが必要であることを痛感したからである。

(大正時代研究の大切さ)

天皇陛下のご感想(平成27年新年に当たり)が宮内庁から発表された。(http://www.kunaicho.go.jp/okotoba/01/gokanso/shinnen-h27.html)

「昨年は大雪や大雨、さらに御嶽山の噴火による災害で多くの人命が失われ、家族や住む家をなくした人々の気持ちを察しています。

また、東日本大震災からは4度目の冬になり、放射能汚染により、かつて住んだ土地に戻れずにいる人々や仮設住宅で厳しい冬を過ごす人々もいまだ多いことも案じられます。昨今の状況を思う時、それぞれの地域で人々が防災に関心を寄せ、地域を守っていくことが、いかに重

要かということを感じています。

本年は終戦から70年という節目の年に当たります。多くの人々が亡くなった戦争でした。各戦場で亡くなった人々、広島、長崎の原爆、東京を始めとする各都市の爆撃などにより亡くなった人々の数は誠に多いものでした。この機会に、満州事変に始まるこの戦争の歴史を十分に学び、今後の日本のあり方を考えていくことが、今、極めて大切なことだと思っています。この1年が、我が国の人々、そして世界の人々にとり、幸せな年となることを心より禱ります」。

今上天皇の新年のご挨拶を拝見して感動を覚えた。

明治、大正、昭和の3代のうちで大正時代は存在感が弱いと思うのは私だけであろうか。司馬遼太郎の『坂の上の雲』の影響によるものか明治時代は明るく、活発であったと勝手に想像していた。それに引き替えて、大正時代は陰気で消極的な時代と決め込んでしまっている。

しかし、大正生まれの若者が男女を問わず満州事変から始まって日中戦争や大東亜戦争の兵士として、あるいは銃後の守りとして戦争を闘っていたのである。

さらに戦後の混乱した社会を立て直し、高度成長の牽引車となったのも大正生まれであった。私の父親は明治生まれの祖父である農民運動で活躍した山崎豊定と昭和生まれの武道・勇治兄弟に挟まれた大正生まれである。

農民運動のリーダーであった祖父のために、父親は幼少のときから長男として祖母を助けて農業に従事したり、さんざん苦勞を舐めさせられた。我が家の社会的弾圧を緩和するために、模範的軍国青年になり、軽機関銃の射手に進んで志願し、国家に奉仕しようとした。

死線をさまよった4年間と銃弾の下をくぐって皇居を守り、房総半島を守った。

戦後になっても、政治家の道を歩んだ祖は父は光り輝いた存在であった。

しかし、父親の軍隊手帳を読み返しているうちに、立派な父親であったことに気が付いた。

軍隊手帳を、戦場の弾の下でも毎日欠かさずつけていた。第2に、旧制中学も出ていないにもかかわらず、漢字だけでなく博学で、物事をよく知っており適格な判断力があつた。

これ1つをとっても、豊かで才能があることが分かる。

父親の軍隊手帳は、日本近代史における大正時代研究の必要性に気づかせてくれた。私はこれからの余生を大正時代研究に邁進したいと思っている。

なお、山崎重一郎は、2005年に「旭日単光賞」を受賞した。戦後、母村会議員を1期、伯太町会議員を4期務め、町政に貢献ししたことが評価されたためである。

略年表

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%81%E4%BA%94%E5%B9%B4%E6%88%A6%E4%BA%89>)

前史

1917年1月 山崎重一郎 父、山崎豊定と母、リヨノの間の長男として出生

1925年（大正14）1月 蒋介石の広東政府、北伐を開始

1927年（昭和2）

- 5月 北伐が山東省の日本利権に迫り、日本軍第一次山東出兵
- 10月 毛沢東、江西省に革命根拠地樹立

1928年（昭和3）

- 4月 蒋介石の北伐再開、日本軍反発し第二次山東出兵
- 5月 済南事件
- 6月 北伐完了
- 6月4日 張作霖爆殺事件
- 7月 アメリカ合衆国政府、蒋介石の国民政府を承認。
- 10月 蒋介石、国民政府主席に就任

1929年4月 世界恐慌起こる

- 12月 南京の月刊誌『時事月報』で田中メモリアル が発表される

1930年 日本、金輸出解禁により金流出、輸出不振。

1931年

- 9月18日 満州事変勃発
- 12月 日本金輸出再禁止

1932年

- 1月28日 第一次上海事変
- 2月～9月 リットン調査団、柳条湖事件を調査
- 3月1日 満州国建国宣言
- 5月15日 五・一五事件発生
- イギリスがブロック経済を形成する
- 9月15日 日満議定書調印
- 10月 リットン調査団、国際連盟に報告

1933年

- 1月～3月 日本軍、熱河に侵入。
- 2月21日 国際連盟総会でリットン報告を採択（反対票は日本のみ）、日本に対し満州が

らの撤退が勧告される。日本は不服として連盟脱退を表明。

- 3月4日 フランクリン・D・ルーズベルトがアメリカ大統領に就任、ニューディール政策を実施（～1936年）。
- 3月24日 ドイツ、「全権委任法」を制定、アドルフ・ヒトラーが総統に就任。
- 3月27日 日本、国際連盟から正式に脱退する。
- 日本、中華民国と塘沽協定を結ぶ。

1934年

- 10月 毛沢東の長征はじまる（36年10月まで）。

1935年

- 天皇機関説問題。美濃部達吉の著書発禁、貴族院議員辞職を強いられる。
- 8月1日 中国共産党、八・一宣言（抗日救国宣言）で、国共合作を呼びかける。
- 11月 冀東防共自治政府成立

1936年

- 1月 日本、ロンドン軍縮会議を脱退。
- 二・二六事件
- 日独防共協定、締結される。
- 12月 西安事件（張学良、蒋介石を拉致監禁）

1937年

- 7月7日 蘆溝橋事件（蘆溝橋事件）。これより中華民国との日中戦争勃発。
- 7月 日本軍、北京・天津地域を占領。通州事件発生。
- 8月13日 第二次上海事変
- 9月 第二次国共合作
- 12月13日 日本軍、国民政府の首都南京を占領。南京事件（事件の有無、規模、性質をめぐっては議論あり）。
- 国民政府、重慶に首都移転。

1938年

- 1月 日本、「爾後国民政府を相手とせず」のいわゆる近衛声明発表。国民政府との和平交渉を打ち切った。
- 1月1日 山崎重一郎 赤紙召集、松江六十三連隊入隊
- 4月1日 日本、国家総動員法公布。
- 5月5日 国家総動員法、施行。
- 7月30日 山崎重一郎、宇品港出港—上海へ

- 8月1日 上海から軍艦にて揚子江を上り
- 8月2日 九港上陸
- 8月30日 武漢三鎮攻撃命令下る
- 10月1日 黄渡鎮—南翔—嘉定到着
- 10月5日 南翔—徐州
- 10月6日 南京到着
- 10月8日 南京—九江
- 10月13日 九江—羅盤山到着
- 10月16日 羅盤山攻防を巡る激戦開始
- 10月25日 明日の死を前に赤犬の肉を食べる
- 10月26日 漢口に向けて出発、行軍中、下痢、嘔吐で野戦病院へ
- 11月9日 原隊復帰、軽機関銃射手、全員死亡の報
- 12月 汪兆銘、重慶を脱出。

1939年

- 4月 山崎重一郎 上等兵を命じられる
- 5月 ノモンハン事件
- 9月 第二次世界大戦勃発。ドイツ軍がポーランド侵攻開始、これに対して英仏が宣戦。

1940年

- 汪兆銘、南京国民政府樹立。
- 6月14日 ドイツ軍、パリに入城。
- 6月 フランスのヴィシー政権がドイツに降伏。自由フランス政府は抵抗を続行。
- 9月29日～10月26日 山崎重一郎、江南作戦に参加
- 9月 日本、北部仏印に進駐。
- 9月 日独伊三国軍事同盟締結。
- 10月 大政翼賛会、結成。
- 11月 大日本産業報国会、結成

1941年

- 1月18日～2月1日 山崎重一郎、宣興南方作戦に参加
- 3月1日 ドイツ軍、ブルガリアに進駐。
- 3月18日～3月25日 山崎重一郎、蘇南作戦に参加
- 3月30日 山崎重一郎、内地交代帰還のために江蘇省常塾県常塾を出発

ある近衛兵の軍隊手帳

- 4月5日 上海出発
- 4月11日 大阪港帰着
- 4月13日 日ソ中立条約調印。
- 4月14日 山崎重一郎、陸軍兵長を命名す。
- 4月15日 山崎重一郎 現役満期
- 4月16日 山崎重一郎、予備役
- 6月22日 ドイツ軍、ソ連に侵攻開始（バルバロッサ作戦）。独ソ戦始まる。
- 7月2日 対ソ戦準備・南部仏印進駐を御前会議で決定。
- 7月 日本、南部仏印に進駐。
- 10月2日 ドイツ軍、モスクワ攻略作戦（タイフーン作戦）開始。30日に中断、翌月19日に再開。
- 11月 アメリカ、日本に、ハル・ノートを提案。
- 12月8日 マレー作戦・フィリピン作戦・真珠湾攻撃実施 日本は英米蘭に対し開戦、太平洋戦争勃発。
- 12月10日 日本軍、グアム占領（グアムの戦い（1941年））。
- 12月11日 ドイツとイタリア、アメリカに宣戦布告。
- 12月23日 日本軍、ウェーク島占領（ウェーク島の戦い）。
- 12月25日 日本軍、香港占領（香港の戦い）。

1942年

- 1月2日 日本軍、マニラ占領（フィリピンの戦い）。
- 2月6日 日本軍、ラバウル占領（ラバウルの戦い）。
- 2月15日 日本軍、シンガポール占領（シンガポールの戦い）。
- 3月8日 日本軍、ランゲーン占領（ビルマの戦い）。
- 3月9日 日本軍、ジャワ島占領（蘭印作戦）。
- 4月27日 長男 武道誕生。
- 5月7～8日 珊瑚海海戦
- 5月 日本軍、フィリピンのコレヒドール島占領。
- 6月5～7日 ミッドウェー海戦
- 8月 ガダルカナル島の戦い始まる。

1943年

- 2月1～7日 日本軍ガダルカナル島から撤退。
- 2月 ソ連軍がスターリングラードでドイツ第6軍を降伏させる。（スターリング

ラード攻防戦)

- ドイツ東部戦線、第三次ハリコフ攻防戦。
- 4月18日 山本五十六連合艦隊司令長官、ブーゲンビル島上空にて戦死。〔海軍甲事件〕
- 7月4日 ドイツ東部戦線、クルスクの戦い。(～8月27日)
- 7月10日 連合軍、シチリア島に上陸。(ハスキー作戦)
- 9月3日 連合軍がイタリア半島に上陸。(イタリアの戦い)
- 9月8日 イタリア王国、連合国に降伏。
- 9月23日 ドイツに救出されたムッソリーニがイタリア社会共和国を建国。日本は承認。
イタリアは内戦状態に。

1944年

- 日本学童疎開始まる。
- 一号作戦(大陸打通作戦)開始。
- 7月15日 山崎重一郎、臨時招集により西部第三部隊に應召。
- 同日小笠原隊編入。同日、東部、中部、西武各軍管区戦時警備下令。
- 9月24日 転属のため、2泊3日の外泊許可。
- 10月4日 近衛歩兵第六連帯に転属、同日第八中隊に編入。
- 10月6日 編成完結
- レイテ沖海戦
- 12月 ドイツ軍、アルデンヌ攻勢。

1945年

- 2月18日 硫黄島の戦い始まる。
- 2月27日 三笠宮殿下と一間位近くで重一郎一人拝見、返礼に感激
- 3月10日 東京大空襲
- 3月22日 硫黄島が陥落。
- 3月26日 米軍、沖縄上陸。
- 4月6日 天一号作戦(菊水作戦)開始。
- 4月12日 アメリカ、ルーズベルト大統領、死去。
- 4月28日 ムッソリーニがパルチザンに処刑される。イタリア社会共和国は崩壊
- 4月29日 群馬県勢多郡黒保根村 近衛師団赤坂隊官本隊
東部第三六部隊に転属。同日、第一中隊に配属。
- 5月2日 ベルリンが陥落(ベルリンの戦い)。
- 5月8日 ドイツ、無条件降伏。

ある近衛兵の軍隊手帳

- 5月12日 九州小倉西部第三十六部隊へ対空機関砲の技術習得のため出発。
- 6月18日 小倉から焼け野が原の広島、岡山、大阪、名古屋、静岡通過して原隊復帰
次男 勇治誕生。
- 7月5日 4時30分起床、千葉鹿島へ向けて出発準備。(アメリカの爆撃機迎撃のため)
- 7月21日 独立歩兵六九六大隊に転属。同日第一中隊に編入
- 7月25日 米国、原爆投下命令を下す。
- 8月6日 広島市への原子爆弾投下。
- 8月8日 ソ連、ヤルタ協定に基づき日ソ中立条約を破棄し、日本に宣戦布告、日本保護領満州国、樺太南部、朝鮮半島、千島列島に侵攻(ソ連対日宣戦布告)。
- 8月9日 長崎市への原子爆弾投下。
- 8月15日 ポツダム宣言。
- 9月2日 日本、降伏文書に調印、第二次世界大戦終結。
- 9月9日 召集解除、兵長 山崎重一郎、150名の兵隊を引率して東京駅へ。
- 9月10日 郷里に帰着。
- 9月下旬 - 中国大陸の日本軍降伏、日中戦争終結。